

平成 30 年度

金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 31 年 4 月
(2019 年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

例　　言

1. 本書は、金沢市文化スポーツ局文化財保護課および金沢市埋蔵文化財センターが平成30年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要、成果および結果を公表することを目的として刊行するものである。
2. 本書は、平成30年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査、分布調査、および教育・普及・啓発活動に関するを中心編集したものである。
3. 本書に掲載した埋蔵文化財の遺構・遺物等の写真は、それぞれの担当者が撮影した。
4. 各遺跡の遺跡番号は石川県遺跡・文化財情報システム（平成25年度版）及び金沢市遺跡地図に準拠している。

目　　次

1. 埋蔵文化財発掘調査等事業	1
2. 埋蔵文化財分布調査事業	28
3. 教育・普及・啓発活動事業	39
4. 組織	53

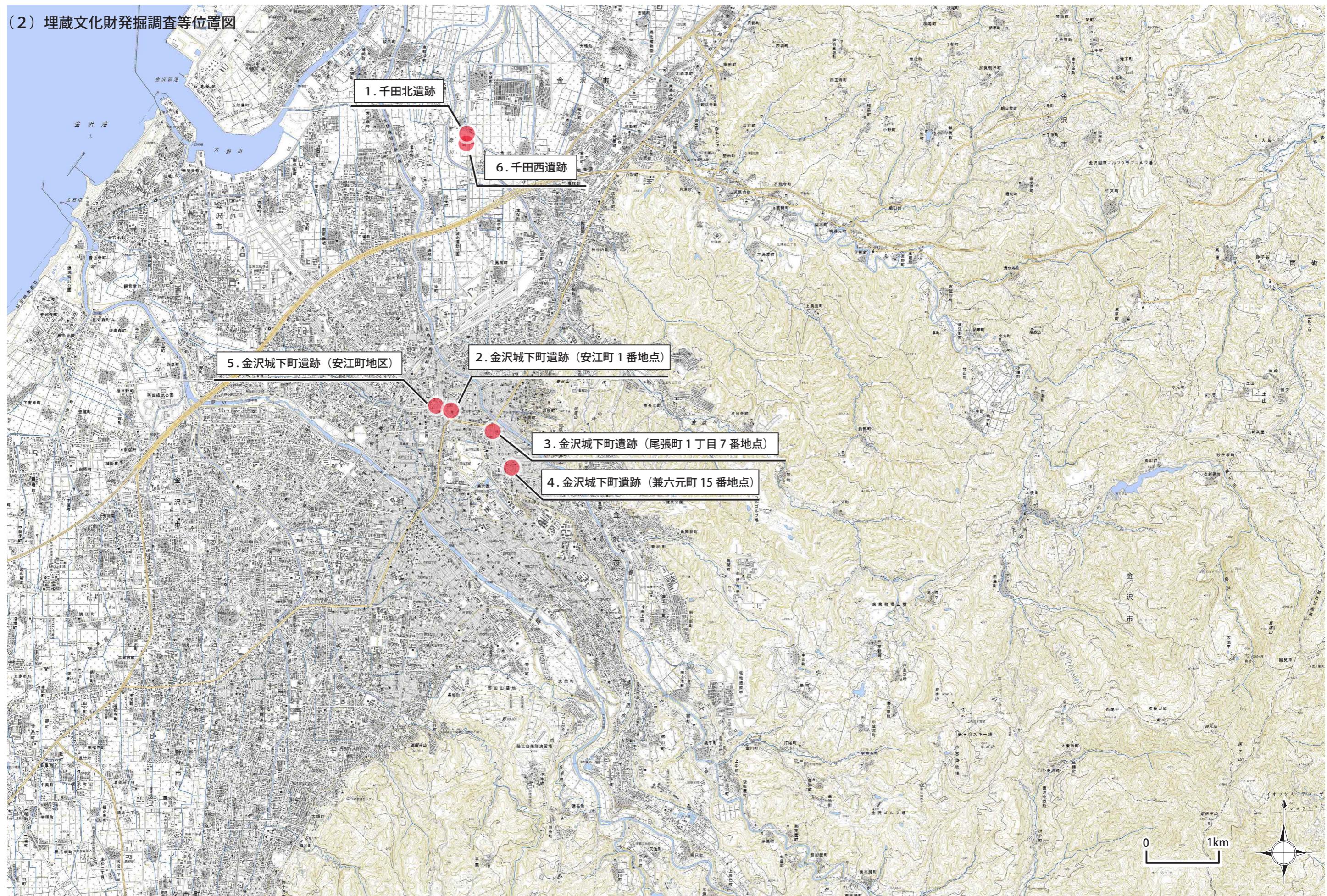
1. 埋蔵文化財発掘調査等事業

(1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No.	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費（千円）	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
千田北遺跡										
1	金沢市 千田町地内	上層 2,500m ² 下層 1,000m ²	道路建設 (公 共)	20180413 ～ 20180930	沖積地	45,827	102 箱	弥生・古墳 平安・鎌倉 室町	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 堀川	ピット 墓
金沢城下町遺跡 (安江町1番地点)										
2	金沢市 安江町地内	82m ²	宿泊施設建築 (民 間)	20180613 ～ 20180726	沖積地	4,650	42 箱	弥生・江戸	包含層 土坑 小穴	弥生土器 近世陶磁器 土器 瓦 石製品 金属製品 木製品
金沢城下町遺跡 (尾張町1丁目7番地点)										
3	金沢市 尾張町1丁目地内	28m ²	個人住宅 (民間・国庫補助)	20180709 ～ 20180727	河岸段丘	928	3 箱	江戸	石垣 堀 土坑	近世陶磁器 土器 瓦
金沢城下町遺跡 (兼六元町15番地点)										
4	金沢市 兼六元町地内	202m ²	老人福祉施設建築 (民 間)	20180713 ～ 20180927	沖積地	9,100	5 箱	江戸	石垣 石列 土坑	土器 陶磁器 瓦 石製品
金沢城下町遺跡 (安江町地区)										
5	金沢市 安江町地内	1,130m ²	市街地再開発 (民 間)	20180720 ～ 20190630 予定	沖積地	65,280	250 箱	江戸	礎石 柱穴 井戸 土坑 石列 溝 地下室	近世陶磁器 土器 瓦 石製品 金属製品 木製品
千田西遺跡										
6	金沢市 千田町地内	450m ²	道路建設 (公 共)	20181108 ～ 20181227	沖積地	17,185	6 箱	弥生・古墳 平安・鎌倉	ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 陶磁器 金属製品 木製品

※「出土遺物数」は容量 36ℓ のコンテナケースに換算した数量である。

(2) 埋蔵文化財発掘調査等位置図



1. 千田北遺跡

(遺跡番号 県: 159500 市: 595)

所 在 地: 金沢市千田町地内

北緯 $36^{\circ} 36' 50''$

東経 $136^{\circ} 39' 30''$

調査面積: 3,500m²

種 別: 集落跡

主な時代: 弥生後期～古墳前期、平安、

鎌倉、室町

担 当: 向井 裕知

■ 遺跡の概要

金沢市では、平成 25 年度から平成 30 年度にかけて金沢外環状道路・木越福増線築造工事を調査原因として、千田町地内で千田北遺跡の発掘調査を実施してきた。

金沢市北部の沖積平野に所在する千田北遺跡は、下流では天井川となる浅野川・金腐川流域で、干拓前の河北潟にも程近い位置に立地している。千田町は芹田郷遺称地とされており、推定大治年間(1126－31)の書状や、「千田郷」として暦応 4 年(1341)の書状にみえる。時衆過去帳にも「加州千田」が結縁者として見え、16 世紀代の文書では、千田姓の有力な地侍層が存在することが知られる。近隣に加賀一向一揆の中枢を担った木越光徳寺の跡地が所在し、隣接する木越には、16 世紀に入ってから、木越光琳寺、同光専寺が寺地を構え、後に木越三光と称された。

平成 30 年度は、平成 29 年度調査区に隣接して調査を実施した。

部分的に上下層 2 面存在し、2 面(下層)は弥生時代末～古墳時代初頭頃の土坑や溝が確認され、1 面(上層)は古墳時代前期頃、平安、鎌倉、室町時代のピット、井戸、土坑、墓、溝、堀、川などが確認された。以下、時代毎に概略を報告する。

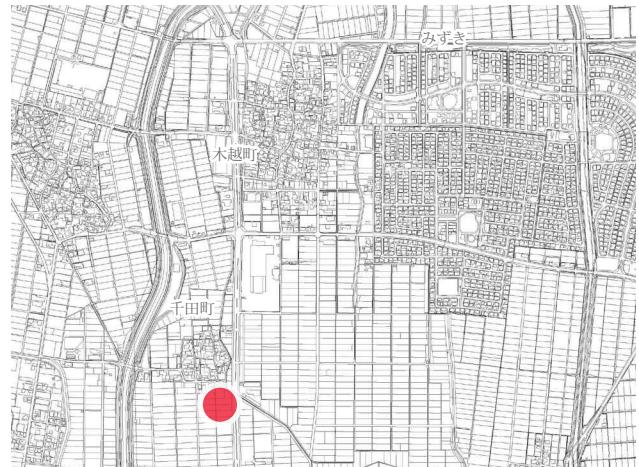
弥生時代末～古墳時代初頭頃にかけては、北西～南東に延びる溝を数条確認した。部分的に土器が集中して出土した箇所があり、完形品も含まれる。土坑にも完形もしくは完形に近い土器が共伴する事例が複数認められ、その機能については今後の検討課題である。1 面で検出した古墳時代前期頃の遺構についても、同様である。

平安時代は主に 9・10 世紀頃の遺構・遺物が認められ、今回の調査では東西方向に延びる溝が検出された。平成 29 年度調査で杭列とされていたもので、堀方の検出が困難であったが、層位によって溝の土留めとして杭を使用していることが確認された。溝からは須恵器の他、和同開珎が出土した。今年度調査の中心を成したのが鎌倉時代である。既往の調査で掘立柱建物や井戸、溝、川などが検出されており、当該時期が千田北遺跡の 1 ピークであることは把握されていたが、今回の調査で検出された堀や池状遺構、墓、また金箔を施した木製笠塔婆を代表とする木製宗教関連遺物等の出土によって、特異な様相が明らかとなってきた。以下に主なものを紹介する。

なお、室町時代については、調査区東側で溝等覆土の表層で遺物を確認しており、その中心は更に東側の調査区に展開している。

【曲物棺墓 ST01】

略円形を呈し、径約 60 × 70cm、深さ約 40cm、蓋板径約 54cm、供献された土師器皿より 13 世



紀後半～14世紀初頭頃の遺構と考えられる。

曲物を用いた棺に、座った体勢で土葬されていたと考えられる。ただし、底板が外されていること、遺体の下には側板に使用するような薄板を数枚重ねて敷いてあることから、棺桶のように収められた状態で運搬、埋葬されたのではなく、現地にて遺体の下に薄板を敷き、周囲に曲物側板を置いたものと考えられる。当初は、ちょうどかかと部分に押し出されたような状態で曲物側板が割れており、また蓋板が遺体の上に落ちていたために、遺体の膨張等によって粘土質の土壌が押し出されたことで曲物側板が土中で割れたものと考えていたが、そうではないようである。蓋板が遺体の上に覆い被さっていたことで土壌の影響が少なかったために、人骨が一定程度保たれたものと考えられるが、蓋板が落ちたと考えるならば、蓋板よりも径が大きな状態で設置された曲物の上に、当初はどのように蓋板を設置していたかが検討課題である。

その蓋板であるが、曲物の底板を転用したものであり、その上に折敷を敷いて、土師器皿大1枚、小3枚、漆器椀1個を用いて葬送儀礼を行ったと考えられる。

当地において、この墓がつくられた鎌倉時代は伸展葬が主流で、座棺は桶が普及する15世紀以降に主体となる。県内では、14世紀代に大型の甕に埋葬する事例があるが、人骨の残り具合が良くないために、埋葬状態は不明である。

この墓は、屋敷内に単独でつくられる屋敷墓と考えられるが、隣接して焼骨が出土する土坑や木箱による棺もしくは蔵骨器の存在を思わせるような遺構が見つかっている。全国的に単体埋葬の屋敷墓から複数埋葬する墓地へと変化する過渡期に該当するため、屋敷墓から一族墓への変化を示す可能性が考えられる。

【木造僧形神立像】

池状遺構（4区SK30）から出土した像高161mm、幅53mm、厚32mmの木像で、共伴遺物から13世紀代の所産と考えられる。その姿は特徴的で、頭部は円頂で、顔は目、鼻、口、耳が、首には三道を示す筋が彫刻で表現される。襟が大きく開いた垂領の衣をまとい、墨で袈裟のような模様が描かれている。両手は拱手し胸前にあり、右袖で左袖を覆う。右耳の一部及び両つま先は欠損する。三道など仏像としての特徴も見られるが、拱手するなどの造形的特徴から神像と考えられる。像底の木釘痕から、台座の存在が推定される。芯を外したヒノキの辺材を使用した一木造りで、内刳りはない。

木造神像の出土事例は、島根県青木遺跡、滋賀県塩津港遺跡、京都府鳥羽離宮東殿跡、福井県一乗谷朝倉氏遺跡の4例が知られるが、僧形神像としては初例となる。なお、本像の公表後に山形県大南遺跡出土の15世紀前半の木像が、当初想定していた地蔵仏ではなく、僧形神像の可能性が高いと公表された。また、小松市浄水寺遺跡出土の僧形像と報告された木像については、僧形八幡神像ではないかとする指摘がある（戸潤幹夫 2007「山林修行のはじまり」『白山—聖地へのまなざし—』石川県立歴史博物館）。

【木製笠塔婆】

①出土した木製笠塔婆の概要

木製笠塔婆は、餓鬼草紙等の絵画資料や吾妻鏡等の文献史料から存在を窺い知ることができ、墓地や街道沿い、門前など人々が集まる空間に建てられていたと考えられる。なお、株洲市野々江本江寺遺跡で笠塔婆の額が出土するまでは、どのようなものが使用されていたかはほとんど不明であった。

千田北遺跡からは、笠塔婆を構成する部材として、宝珠・請花、笠、蕨手、風鐸、風招、額（額面・

額縁）の各木製品が出土しており、軸となる竿は見つかっていない。また、周囲を囲んだと考えられる釘貫の部材も出土した。廃絶年代は、共伴した土器・陶磁器から13世紀頃（鎌倉時代頃）と考えられるが、建立年代を検討するために年輪年代及び放射性炭素を用いた年代測定を実施予定であり、結果によっては平安時代まで遡る可能性がある。

額は、堀（3区SD40）から3点出土したが、全て左右どちらか半分ほどが残っていた。スギ材を用いている。上端及び左右端部は、額縁が斜めに取り付くように仕上げてあり、額縁背面から打ち込んだ鉄釘によって固定しているが、額の木胎に釘は納まっており、額表面には釘先は出ない。下端部は、規則的な花先形の縁形と猪目によって仕上げられており、額縁のデザインと共に通する。それぞれ額面に円相を彫り、内部に阿弥陀如来を示す種子「キリーク」、観音菩薩もしくは勢至菩薩と考えられる種子「サ」もしくは「サク」を薬研彫りする。円相内には黒色の顔料（漆か、分析中）を塗布し、文字部には、金箔を押している。金箔の下にも黒色顔料が見られ、金箔の接着剤として漆を使用した可能性が考えられる。

両側の額縁下端部は外側に屈曲し、先端部が蕨手と類似した花先形となる。上縁の表面には、模様の痕跡が浮き上がって残っており、天蓋など何らかの描画があったようだ。また、上縁・側縁ともに、乳白色の彩色痕が見られるため、額面と共に円相内部以外は白色系の顔料が塗布されていた可能性があり、分析を進めている。

宝珠・請花は、溝（3区SD39）及び池状遺構（4区SK30）から出土した。風蝕が激しく当初の形状は不明だが、宝珠とその下に請花が表現されていると考えられる。請花下に延びる棒状の部分が、笠の頂部と考えられる木製品の孔径と類似した径をもつことから、笠塔婆に取り付くものと考えた。

笠は、堀（4区SD35）及び溝（3区SD37）から出土した。笠の裾部及び宝珠・請花が取り付く頂部が出土した。笠表面は6分割されている可能性があり、推定径は約960mm、笠の勾配は約10～60°、高さは約260mmである。笠頂部は径約80mmの円形にくり抜かれており、宝珠・請花の径とほぼ一致する。笠裾部の裏面には蕨手を取り付けたと考えられる凹みがある。

蕨手・風鐸・風招は、堀（3区SD40・4区SD35）及び池状遺構（4区SK30）から出土した。

蕨手は、笠塔婆の笠に取り付く部材と考えられ、取り付けるための加工及び風鐸を取り付けた金具の痕跡が認められる。

風鐸は、金属製品を模した木製品で、表面の風化が強い大型品と、表面の残り具合が良い小型品が出土した。大型品は下半部内部を抉り、先端に金属の輪を取り付けている。小型品は金属製品に見られる輪状の加工が忠実に模倣されており、下半の割りと上端部には吊り下げるための部材が取り付けられていた痕跡が認められる。風化具合から、大型品は屋外に建てられた笠塔婆に吊り下げられていたもので、小型品は屋内の厨子などに吊り下げられていたものと考えられる。

風招は、風鐸の下部に吊り下げられるもので、表面の風化具合から、大型の風鐸に吊り下げられていたものと考えられる。

②木製笠塔婆の立つ風景

絵画資料等を参考にして、本遺跡での出土状況から以下のような景観復元を試みた。

宝珠・請花が2点、額が3点あることから、1基の笠塔婆に3面の額が取り付くのではなく、少なくとも3基の笠塔婆が立っていたと推測できる（木製笠塔婆の伝世品とされる奈良県天理市長岳寺五智堂（重要文化財）は支柱に4基の額が取り付く）。

頂部に宝珠・請花をもつ六面体と推定される笠からは、金具で風鐸と風招をつり下げる蕨手が伸び

る。笠は柱状の竿（未発見）と接続し、縦長の額が固定される。額には阿弥陀如来などの種子が彫刻され、円相内は黒色漆もしくは顔料を塗布、種子内は金箔押し、その他の部分は白色系の顔料による彩色が推測される。額の下方を除く3方には装飾を施した額縁が、額に対して斜めに起き上がった状態で鉄釘によって固定される。額の下半部は、風蝕によって見えなくなっているが、恐らく願文や願主、年号等が記載されていた可能性がある。

また、額2・3等の上には、こぶし大の石が多く積み重なって出土したことから、笠塔婆の基礎部分には石が置かれ、その周囲は共伴した釘貫で囲まれていた可能性がある。

③木製笠塔婆が意味するところ

木製笠塔婆の出土例としては、珠洲市野々江本江寺遺跡に次いで2例目となる。また、金箔を用いた事例として、石造五輪塔や板碑には、刻まれた種子に金箔を押したものが見受けられるが、遺存例が少ない木製笠塔婆においては、千田北遺跡出土品が唯一の出土例である。

平安時代末には、奥州の藤原清衡が街道の一町毎に金箔押しの阿弥陀像を描いた笠塔婆を建立したことが吾妻鏡から知られる。像と種子という違いはあるが、その情景を示す貴重な事例といえよう。なお、額という点では、三重県鈴鹿市の伊奈富神社社殿に文永11年（1274）に掲げられた扁額（重要文化財）の「正一位稻生大明神」と刻まれた文字に金箔を押した事例がある。

また、額面と額縁が接続した状態で出土することも初の事例であり、釘貫も共に出土していることから、木製笠塔婆が建てられた具体的な景観が考古資料で想定可能となったことは重要である。

【こけら経・卒塔婆】

堀（3区SD38・4区SD35）及び池状遺構（4区SK30）から出土した。共伴遺物から13世紀代の所産と考えられる。

上端部を圭頭状にしたものや、両側から切り込みを入れたものなどがあり、文字が判読できるものについては、妙法蓮華経が墨書きされているが、整理途上である。

卒塔婆は、こけら経と比べて厚く、長さ・幅共に大きなものがあり、上端部は両側から2段の切り込みを入れるなどの加工がみられる。池状遺構の底面に先端が焦げた板が複数枚突き刺された状態で出土したが、形状から卒塔婆が突き刺してあった可能性が考えられる。

【千田北遺跡の宗教空間】

曲物棺墓と僧形神立像や木製笠塔婆等の宗教関連遺物は、堀で区画された南側の空間で見つかっており、調査区の南端であることから、調査区の都合上その空間の全体像を知ることはできない。

僧形神立像と考えられる木像は、木像制作者が神像として制作したものを、願主もしくは2次的に木像を入手した人物もしくは組織が、地蔵菩薩などの仏像として祀っていた可能性も考えられる。また、形式的には神像と考えられるが、本地仏などの仏像として制作されていた可能性もある。その実態を明らかにすること及びこの空間の位置づけ（館内部の宗教施設もしくは寺院などの存在を示すのか等）は、今後の課題だが、木製笠塔婆や卒塔婆、こけら経を用いた宗教行為が執り行われた佛教的空间で神像を祀っていた可能性があり、当時の神仏習合や宗教観を探る上で貴重な事例であると考えられる。これほどの宗教行為を執り行えた人物は、地域の有力者と考えられ、後に加賀一向一揆の有力寺院が居を構えた千田北遺跡周辺には、鎌倉時代頃においても大きな力を持った人物が存在していたことが推察される。



4区南 遠景(東を望む)



4区南 SD35



4区南 下層遺物出土狀況



4区南 ST01曲物棺墓



3区南 SD40 笠塔婆等木製品出土狀況



4区南 ST01曲物棺墓 供獻土器出土狀況



3区南 SD40 笠塔婆額・額縁出土狀況



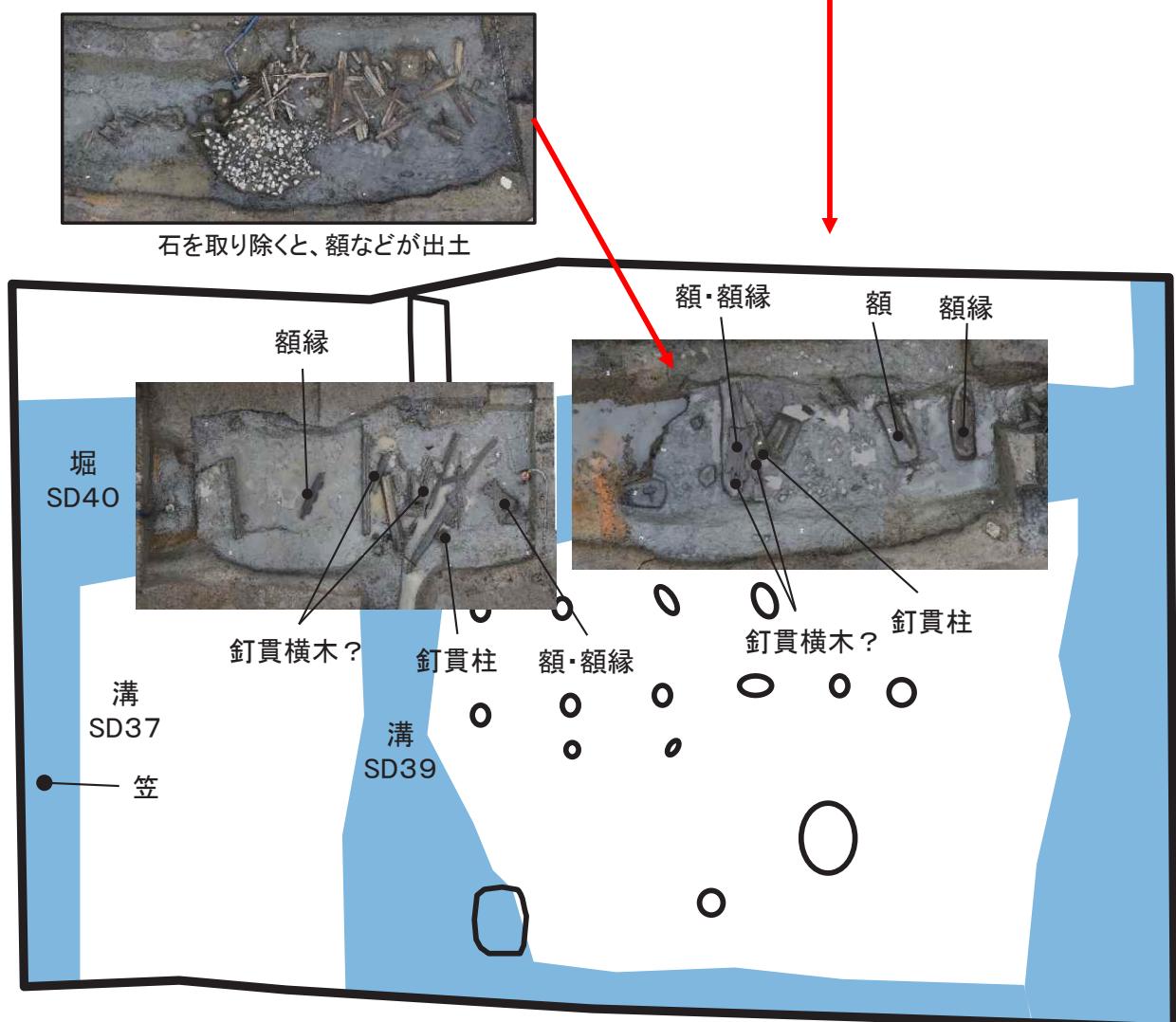
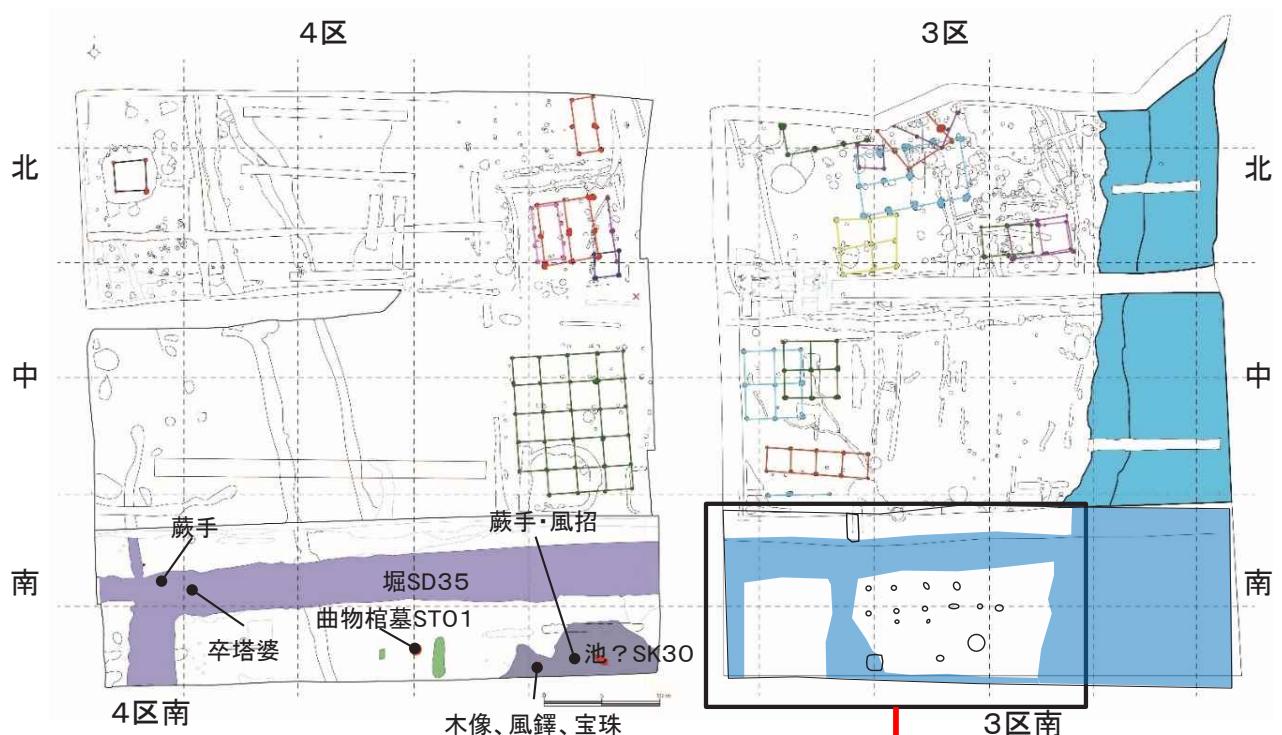
4区南 ST01曲物棺墓 人骨出土狀況



3区南 SD40 こけら経出土狀況



4区南 ST01曲物棺墓 完掘狀況



4区南



僧形神立像 出土状況



僧形神立像(左:正面、右:正面から側面)

4区南



卒塔婆出土状況、SD35出土
2枚重なった状態で出土した



池？底に突き刺した
板状木製品
先端部は、どれも同
じ高さで焦げている
隣接する倒れたもの
も同様で、規格から
卒塔婆の残欠と推
察される

出土したこけら経
中・右は赤外線画像

3区南



額1

額縁2



額1 (拡大)



額縁1



風鐸

円相と阿弥陀如来を示す種子(キリーク)を
彫り込み、円相内に黒色顔料(漆か)を塗
布し、種子の彫り込み部に金箔を押す

3区南





宝珠



笠(上:表面、下:底面)



風鐸

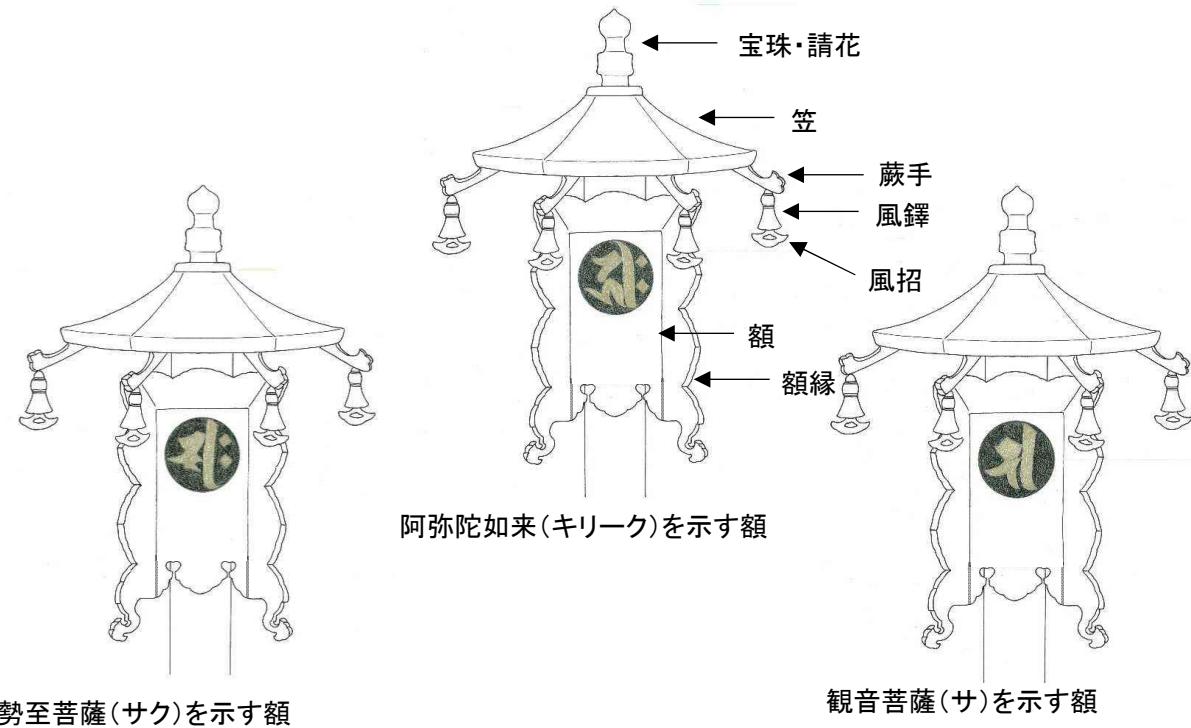
風招



額と額縁の関係

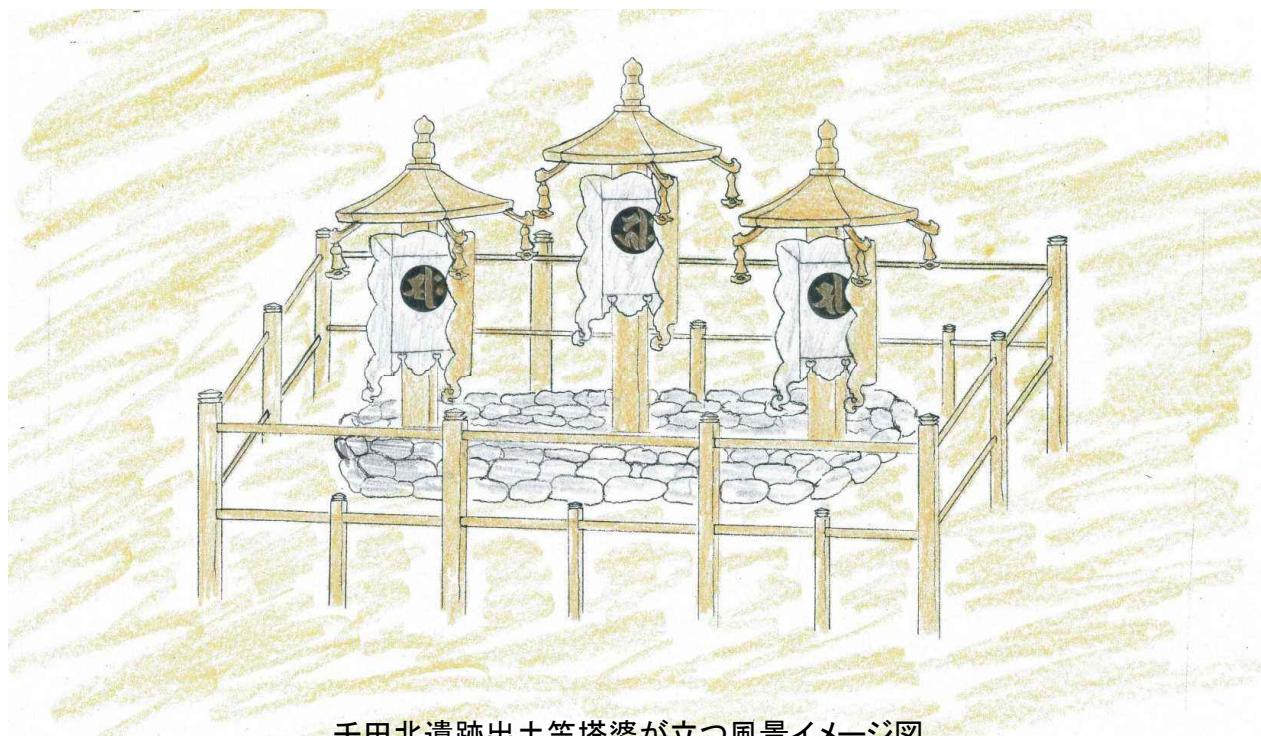


釘貫の柱



千田北遺跡出土笠塔婆の推定復元図

・額面の3種類の種子は、阿弥陀三尊を示していると考えられる。



千田北遺跡出土笠塔婆が立つ風景イメージ図

・笠塔婆の笠や蕨手、風鐸、風招、また釘貫柱の頂部付近は、彩色されていた可能性があるが不明なため木肌色とした。
 ・額面の円相内部は黒色、種子は金箔、円相外部と額縁は乳白色の彩色を想定した。

2. 金沢城下町遺跡 (安江町1番地点)

(遺跡番号 新発見のため番号無し)

所 在 地：金沢市安江町地内

北緯 $36^{\circ} 34' 23''$

東経 $136^{\circ} 39' 20''$

調査面積：82m²

種 別：城下町

主な時代：弥生・江戸

担 当：谷口 明伸



■ 遺跡の概要

本遺跡は民間宿泊施設建設予定地に所在する江戸時代の遺跡である。平成29年度の試掘調査で埋蔵文化財が確認され、工事に先立ち平成30年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施した。建設予定地のうち既存建物箇所は既に遺構が破壊されていたため、建物後背の駐車場箇所約82m²を対象に発掘調査を実施した。調査地は武蔵が辻交差点から北西に約100m、金沢城下町の金石側出入口にほど近い街道沿いに立地しており、江戸時代においては街道に面して町家が建ち並ぶ商人地の一角であった。

調査地の基本層序は、現地表（標高14.2m付近）から約60cm下までが駐車場舗装及び整地面、その下約40cmまでが明治時代以降の整地層となり、その下に50cm前後の厚さで江戸時代の整地層が展開し、標高12.7m付近で地山となる。

発掘調査では計20基の土坑と2基の小穴を確認し、容量36リットルの遺物箱に換算して42箱分の遺物が出土した。土坑のうちSK04は直径2.5m、深さ1.5mを測る大規模なもので、陶磁器類や木製品などが大量に出土した。SK06も直径1.5m、深さ1.0mの大規模土坑で、同様に大量の遺物が出土している。これらは規模や遺物の出土状況から不要品を投棄したいわゆる「ゴミ穴」と考えられる。SK12、16からも大量の遺物が出土しており、これらも同様にゴミ穴と思われる。その他、SK01は75×40cmの方形の大石を設置する土坑で、大石の周りに拳大の石を廻らせており。用途としては建物や土間へ上り下りする沓脱石などを想定したい。SK03は直径1.2m、深さ0.6mを測る土坑で、上層から灯明皿、下層からは木板が出土する特殊な遺構である。SK17～20はいずれも0.7×0.5m前後の長方形の小規模土坑であるが、方形に配置されること、うち3基の底面に石が残存していること、などから江戸時代の建物基礎跡の可能性がある。また、遺構の大部分は江戸時代に属するものであったが、調査区の北端に弥生時代の包含層がわずかに残存しており、当該期の甕や高坏の破片などが出土している。

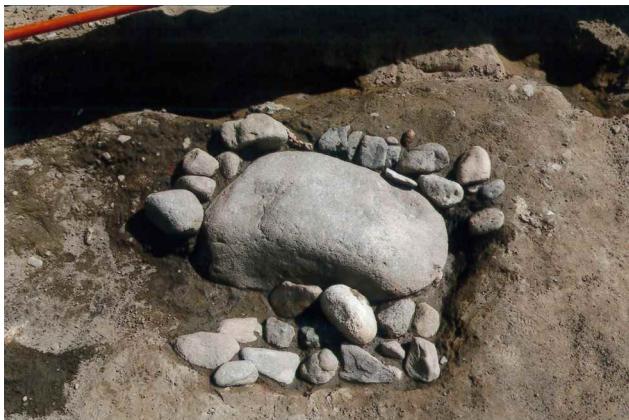
江戸時代の城下町絵図では、前述のとおり調査区は町人の居住する地区の一角にあたる。延宝金沢図（延宝年間、1673～1680年）での調査区は33×35mの正方形に近い敷地の裏手側に位置し、隣接する武家地との境界に近い。発掘調査で検出された大小の土坑は敷地裏手の空閑地に掘られたものと見られ、町家における土地利用の状況を示す事例が得られる結果となった。また、部分的であるが弥生時代の包含層と遺物を検出していることは、金沢市の中心市街地における弥生時代の遺跡分布に新たな事実を提供する結果となった。



調査区全景（上層）



調査区全景（下層）



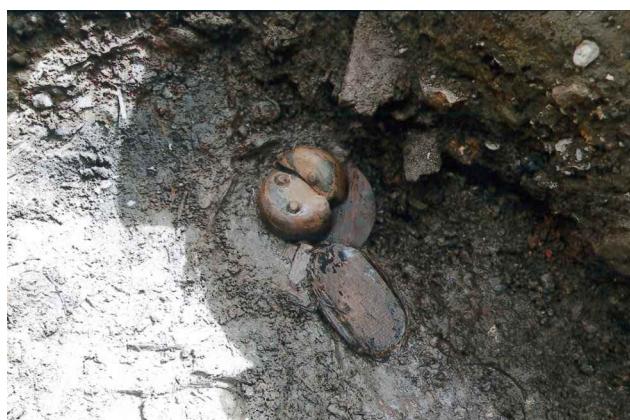
SK 01



SK 03



SK 04



SK 04 出土遺物



建物基礎跡



弥生土器出土状況



延宝金沢図（延宝年間、1673～1680）と現在の都市計画図との重ね合わせ



延宝金沢図の発掘調査区周辺

かなざわじょうかまちいせき
3. 金沢城下町遺跡
おわりちょう 1 ちょうめ 7 ばんちてん
(尾張町1丁目7番地点)
(遺跡番号 新発見のため番号なし)

所 在 地：金沢市尾張町1丁目地内

北緯 $36^{\circ} 34' 13''$

東經 $136^{\circ} 39' 49''$

調査面積：28m²

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：庄田 知充

■ 遺跡の概要

本発掘調査は、個人住宅の地下駐車場建設に伴い国庫補助事業として実施した。調査地は現況では宅地となっていたが、東内惣構跡の堀跡から土居跡にかけての範囲と推定される。

金沢城惣構跡は、金沢城を中心として城下町を取り囲んだ東西それぞれ二重の惣構で、おもに堀と土居の遺構からなる。平成20年12月26日には、おもに公有地として管理されている堀跡と土居跡、虎口、内道を金沢市史跡として指定している。東内惣構は、金沢城防備のため慶長4年(1599)に造営されたといわれる。起点は、金沢城東側、現在の小将町中学校付近の小立野台地裾部で、東回りに北上し、兼六元町・大手町を経て本調査地を通り、さらに北上して橋場町・主計町を経て浅野川小大橋付近へと向かう。

本調査地付近において、惣構の堀跡と考えられる水路は、南側に隣接する市道に埋設された暗渠となっている。調査地は市道に面する部分で市道とほぼ同じレベルの平坦地となっているが、敷地奥側は擁壁石垣および階段を経て一段高い平坦面となる。一段高い面は、惣構の土居跡部分にあたる上部河岸段丘面にあたると考えられるが、東側に隣接する民有地に露出していた石垣や地形から、調査地の擁壁石垣背面に、さらに時期の古い擁壁石垣が埋没していることが調査前から予想されていた。

発掘調査によると、現状の擁壁石垣は出土遺物から近代以降の構築と確認され、その背面から埋没した石垣が確認された。石垣の高さは1.5mまでを確認し、石垣背面には幅60cmにわたり玉石による裏込めが見られた。裏込めより敷地奥側では、覆土に焼土がまじる土坑が確認された。石垣上端より上層には光沢のある釉薬瓦やコンクリート片が含まれていたため近代以降の整地土と考えられる。

まとめ

本調査区においては東内惣構の堀跡および堀土居側の石垣を確認した。惣構においては虎口の橋台下や虎口周辺、惣構橋番屋敷下において堀岸として石垣があったことが『道橋帳写』等の古文書により知られ、東内惣構跡枯木橋北地点等、発掘調査においても同様の結果となっている。

しかし、東内惣構跡枯木橋南地点では虎口隣接地ではないにもかかわらず、堀外側の岸部において複数時期の石垣が見つかった事例がある。本遺跡の石垣については虎口隣接地以外の近世期の土居側石垣としてはじめて確認されたものである。近隣の枯木橋南地点の成果と併せて考察すると、東内惣構の調査地付近では何らかの理由により18世紀以降、堀の内外の岸部が石垣となっていた可能性が高くなつた。西外惣構跡、西内惣構の既往調査地点においては虎口を離れるとすぐに堀岸が石垣から土坡となっていることとは対照的である。





調査地全景 (俯瞰)

4. 金沢城下町遺跡（兼六元町 15 番地点）

（遺跡番号 新発見のため番号なし）

所在地：金沢市兼六元町地内

北緯 $36^{\circ} 56' 16''$

東経 $136^{\circ} 66' 98''$

調査面積：202m²

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：谷口 宗治



■ 遺跡の概要

調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である金沢城下町遺跡の一角に当たり、浅野川によって形成された河岸段丘のうちの一つに位置し、調査区の形状は老人福祉施設が予定される長方形の区画を呈する。面積は 202m²を測る。

表土除去後には江戸時代の遺物を含む土砂と共に浄化槽やコンクリート基礎、塩ビパイプなどによる著しい攪乱を受けていた。包含層は総じて暗褐色を呈する砂礫土で、部分的に炭や大きな石などが混ざる。包含層の掘削を行うと江戸時代の遺物、磁器や陶器の破片、素焼きの皿や瓦などが出土するが、ほとんどが破片であり、唯一女性が立った様子を模した素焼きの土人形が上半身と下半身が割れた状態で 1 点見つかるぐらいであった。

地表面より 0.8 m 下まで掘削すると、中ほどで大きな石が並んだ状態で現れた。石は上の段で 3 つ、下の段で 2 つ残るのみで、石垣の一部とみられた。石が並ぶ地点の周辺には攪乱が広い範囲にわたって複数あり、この影響により石垣はほとんど失われていた。のちに規模が大きい石垣が現れ、先に見つかった石垣を石垣 2、規模の大きいものを石垣 1 とした。また、石垣 2 より北で石を削って造られた方形の箱状を呈する石製品が現れ、これを石製構造物 1 とした。緑色を呈する凝灰岩で江戸時代の石製品に類例が多くある。上部は欠け、下部は原形を保つ。石垣 2、石製構造物 1 の確認により、地表下 0.8 m に江戸時代の遺構面が存在したようであるが、調査区の全体にわたり、攪乱が及び、この位置にあった遺構面はこれらを除いて消滅していた。

調査区の掘削が全体で深さ 1 m に達した時点で遺構の一部とみられる石を敷いて並べたようなものが現れた。石は大きさが 10cm 未満の小さなものが多く、敷いた幅はおよそ 0.3 m を測り、周辺の土砂と比べると石を敷いた部分は後から設けたもので、下から溝が現れた。溝は南壁のほうから西のほうへ向かい、深さは 0.6 m を測る。石と土砂が堆積し遺物は全く出土せず、底の部分で硬く締まった砂と円礫からなる地層に到達する。この溝と交差する南北に延びる溝も現れ、先の溝を SD01、交差する溝を SD02 とした。掘削により SD02 の南側で地山が北に向けて傾斜することが明らかとなった。地山が確認できた範囲は調査区のうち南側の一部にとどまり、調査区の全体は後から埋め立てたものであることが判明した。地表面より 1.2 m 付近の掘削では、これまで暗褐色を呈し、遺物を含んでいたやや粘質のある土砂からやや明るい褐色の砂礫を呈し遺物を全く含まない土砂へと変化した。石製構造物 1 と同じ緑色をした浅い箱型のものも見つかるが、半分は攪乱により失われていた。これを石製構造物 2 とした。

調査区の北側では L 字を呈する石垣が見つかり、石垣に組まれた石は大きさが 30cm から大きなも

ので50cmを超えるものも含み、石垣の法面を北と東に配し、石垣の内側には裏込めという小さな石が埋められていた。北の石垣を石垣1-1、東を石垣1-2として周囲を更に掘削した。石垣1-1は2段の石組みが残り、石垣1-2は1段のみである。石垣1-2の東側を掘り進めたところ、新たなL字状を呈する石の並びが見つかった。石は1段で並ぶためこれを石列1-1、石列1-2とした。石列1-1と石列1-2は石垣1-1、1-2と同じく北と東に列をなす。周辺から江戸時代の陶磁器の破片が出土した。

土坑は東壁付近のSK01、調査範囲の中ほどで楕円形をするSK02の二つは中が石で埋められていた。SK03は土坑の上面にだけ石があった。調査区の南側では土坑を5つ確認している。土坑は江戸時代に盛られた土砂に掘られたもので、SK04とSK06、SK08は3つの土坑が一直線状にあり、SK08では扁平で大きな石がおかれていた。

出土遺物の概要

今回の調査では江戸時代の中ごろより明治時代にかけての肥前産の磁器類と陶器類をはじめとした近世陶磁器類、在地産の土師器皿や土人形などの土師器類、近世瓦と石製品などが出土した。近世陶磁器類は染付の椀・皿が多く、そのほとんどは細かい破片であった。陶器では茶筒のように円筒形をした湯飲み茶碗や急須などがあり、土師器は灯明に用いた土師器皿が多い。土人形は女性が立つ姿を現したもののか、下半身部分だけのものが2点ある。出土した遺物のうち、最も多かったものは瓦で、釉がかからず、表面は銀色を呈し現代の耐寒瓦と大きく見た目が異なる。瓦も陶磁器類と同じく全て破片である。石製構造物1は茶釜で湯を沸かすための「風炉」とみられ、石製構造物2は台所の外に設けられた水洗い場などでよく見かけるものに類似する。

まとめ

江戸時代の絵図（寛文7年金沢図）で調査地を見ると大手町方向から横山町方向に至る道路に接して武家地であることが分かる。道路北には3つの屋敷地があり、現在の地図と比較すると調査地は中程に位置した屋敷地であった。この屋敷は栗田久右衛門と記される。『加能郷土辞彙』によると、二百石取の御馬廻衆に属す家柄であるが、貞享元年六月十九日に藩の収納米を二重に売買した罪で能登に流罪となった人物で、息子源右衛門が二百石を新たに受け藩臣となったと記されている。

今回の調査では、調査地点の元の地形が、南から北にかけて緩やかに傾斜していた土地であったことが判明した。調査地点の北にある現在の擁壁の部分は調査を実施していないが、調査区の四周の土層を観察すると南側より北側へ向けて地形が傾斜していることを確認した。傾斜がある土地に江戸時代の屋敷地が設けられていたことになる。建物の痕跡を示すものとして、SK04・06・08は等間隔に設けられ、SK08には礎石とみられる石があることなどから柱穴と想定される。また、石垣、石列は建物の周囲に巡らせたものか、何らかの区画を形成していたものと考えられる。石垣1-1と3つの穴の並びはほぼ並行する。3つの穴の並ぶ地点と石垣・石列がある地点とでは高低差があり、建物を建てる際に平地で建てる場合とくらべると工夫する必要があり、緩やかな斜面地の高低差を克服して建物を建てるためには、南側の高い部分では石垣等を設けずに地表面に直接建築工事を行い、北側では南側の高さに近づけるため土砂による盛土や整地工事を行い、盛土が流出しないよう石垣で補強したことが推測される。栗田久右衛門の屋敷地は崖地の高い部分から低い部分にかけてが範囲であり、現在の高低差では屋敷を設けることは無理があるようだが、高低差が現在よりもゆるく、敷地に盛土を行っていたとすると屋敷地として十分に役割を果たしていたのではないだろうか。



着手前風景



包含層の掘削



土人形の出土状況



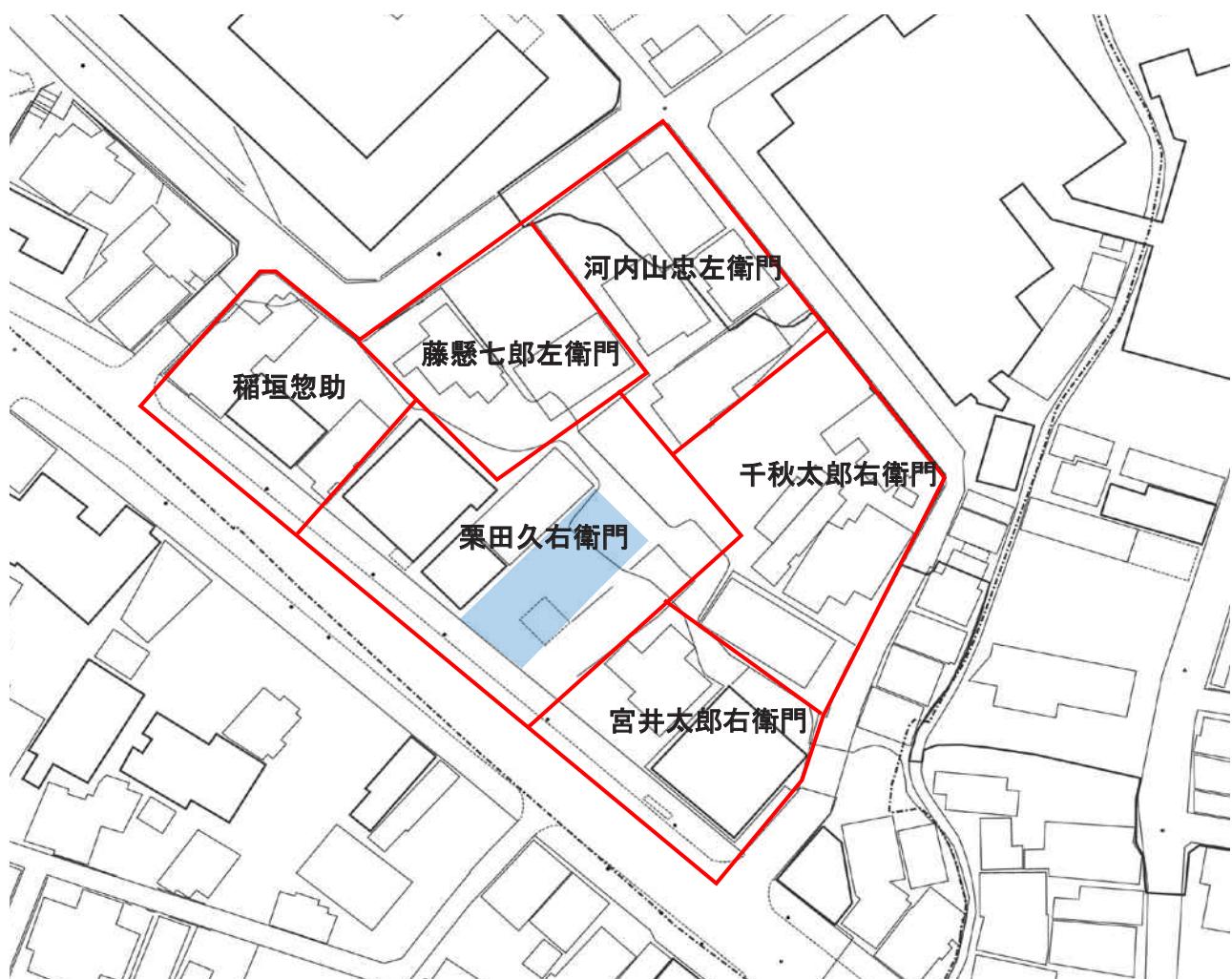
石列1-1・石列1-2



遺跡の完掘状況



寛文 7 年金沢図 (1667 年)



都市計画図と発掘調査区

5. 金沢城下町遺跡(安江町地区)

(遺跡番号 県:130406 市:594)

所在地: 金沢市安江町地内

北緯 $36^{\circ} 34' 26''$

東経 $136^{\circ} 39' 13''$

調査面積: 1,130m²

種別: 城下町

主な時代: 江戸

担当: 庄田 知充、須貝 杏奈



■ 遺跡の概要

本遺跡は藩政期の絵図によると、金沢城下町の西外惣構内側のエリアにあたる。西外惣構跡は市史跡である金沢城惣構跡のうちのひとつで、調査地内でも惣構の堀の東岸が確認されている。調査地西側には升形がある。升形は港のある宮腰から来た往還道が西外惣構と交差し、城下町の出入口となっていた場所で、防御のため堀と土居を「コ」の字形に屈曲させることで、土居に囲まれた方形の空間を造った升形門があった。

本調査は金沢駅武蔵南地区市街地再生事業に伴い、金沢駅武蔵南地区市街地再開発組合からの委託を受けて、金沢市文化財保護課が埋蔵文化財の発掘調査を実施したものである。

発掘調査は既存建築物の解体整地に従って進めたため、調査区は A～F 区に分割して実施した。F 区については、平成 31 年 4 月～6 月に実施することになっている。

調査地を南北に貫く道路は西外惣構の土居の城側に沿って設けられていた内道である。内道と堀跡の水路との間の空間は土居が想定されていたが、調査地内において幕末期の土坡による堀土居側岸部が検出されたことから、藩政期の堀岸が現在の石垣よりも東側に位置していたことが判明した。

内道沿いの調査区では、内道の側溝が検出された。側溝は上部が石積で改修および積み増しがされていた。石積直下には建築転用材による胴木が敷かれており、地盤が脆弱なところでは、胴木下に細い自然木を敷き均して不同沈下を抑制する工夫がされていた。石組み側溝下からは板組みの側溝が見つかったほか、石組み側溝よりも東寄りにおいて、平行する 2 本の小溝（1 本は暗渠化されている）を検出しており、初期段階の道跡の可能性もある。

町家跡は、南側の表通りに面する表店と北側の裏通り（目細通り）に面する裏店が調査地中央付近を背割りとして建っていたことが想定されるが、背割り付近の裏庭等空閑地だったと考えられるエリアからは集中的に廃棄土坑と考えられる土坑が検出された。また、井戸も多数見つかっているが、裏店側から見つかった近世期の井戸はすべて桶組みだったのに対して、表店側では石組みのものが複数見つかったことは特筆すべきであろう。なお、石組み井戸で下部が素掘りないしは桶組みとなっている構造のものも発見している。土坑内および整地層においては、17 世紀後半・18 世紀中頃・19 世紀代の焼土層や焼土を埋めた土坑等、火災痕跡が検出されている。建物跡は礎石建物、掘立柱建物の柱穴が見つかっており、礎石の抜き取り痕に焼土が充填している建物については被災年代が特定できる可能性が高い。

出土遺物としては、肥前陶磁器を中心とし、瀬戸・美濃焼や京・信楽焼、越前焼等の食器や調理具・貯蔵具・灯火具等のほか、行火や石臼等の石製品や下駄・箸・漆椀等の木製品が多く発掘されている。



惣構土居側堀岸検出状況



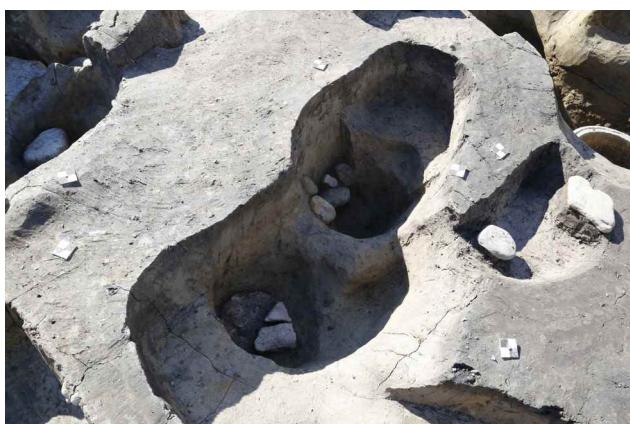
背割り付近の土坑群検出状況



石組み井戸検出状況



桶組み井戸検出状況



柱穴群検出状況



惣構内道の側溝等検出状況



廃棄土坑土層堆積状況



陶磁器等出土遺物検出状況

6. 千田西遺跡

(遺跡番号 県:160700 市:607)

所在地: 金沢市千田町地内

北緯 $36^{\circ} 36' 43''$

東経 $136^{\circ} 39' 27''$

調査面積: 450m²

種別: 集落跡

主な時代: 弥生後期～古墳前期、平安、鎌倉、室町

担当: 向井 裕知

■ 遺跡の概要

千田西遺跡は、小坂 25 号千田町線 10 号道路新築工事に伴い発掘調査を実施した遺跡である。

千田北遺跡の西側に所在するため、地理・歴史的環境については、千田北遺跡の項を参照願いたい。

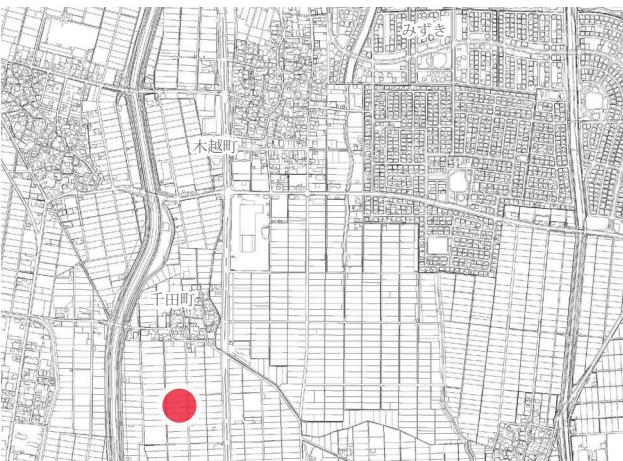
平成 30 年度は、L 字に延びる調査区の東西側で実施した。次年度は南北側を実施する予定である。

遺構密度はあまり高くないが、当初検出面で確認された遺構と 15cm 前後掘り下げた面で検出された遺構があるため、上下層 2 面が確認された。ただし、1 面（上層）で弥生から古墳時代の遺構が検出され、2 面（下層）で鎌倉時代頃の遺構が検出されたように、遺構の見つかり方が前後てしまっている。湧水箇所が多数存在したために、常に軟弱地盤であったことから、1 面（上層）では遺構のプランが見えにくかった可能性がある。

主な遺構としては土坑や溝が検出された。遺物としては、弥生時代後葉頃～古墳時代前葉、平安時代、鎌倉時代のものが出土しており、千田北遺跡と同じような傾向にある。



調査状況



土器出土状況



加賀焼鉢出土状況



土器出土状況

2. 埋蔵文化財分布調査事業

(1) 平成 30 年度埋蔵文化財分布調査事業の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、金沢市遺跡地図に基づき図面調査及び現地での踏査・試掘調査を実施し、開発事業着手前に埋蔵文化財の有無を確認している。

平成 30 年度は金沢市施工の公共事業 7 件、民間の開発事業 148 件について、試掘調査及び踏査を実施した。以下はその一覧である。

なお、平成 23 年度より、開発事業に伴う試掘確認調査については国庫及び県費補助事業にて実施しており、平成 30 年度の事業費は 4,742 千円であった。

このほか、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事に伴うもので、文化財保護法第 93 条及び第 94 条に基づく慎重工事及び工事立会、発掘調査での対応となったものは 56 件で、別表のとおりであった。

公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	事 業 名	担当課	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
1	新豊町地内	小学校校舎整備事業 (新築)	教育総務課	6 月 13 日	3,080m ²	試掘	有	協議要
2	四十万 3 丁目地内	公民館建設事業	生涯学習課	9 月 14 日	887m ²	試掘	無	支障なし
3	東力町地内	小学校校舎整備事業 (新築)	教育総務課	9 月 21 日	275m ²	試掘	無	支障なし
4	玉川町地内	小学校校舎整備事業 (新築)	教育総務課	11 月 19 日	3,370m ²	試掘	有	H31 発掘調査予定 (長氏屋敷跡)
5	末町地内	ケーブル管理設工事	企業局	11 月 29 日	400m ²	試掘	無	支障なし
6	野町 1 丁目地内	防火水槽設置事業	消防総務課	12 月 7 日	24m ²	試掘	無	支障なし
7	弥勒町地内	森本駅前広場 再整備事業	都市計画課	3 月 13 日	4,450m ²	試掘	無	支障なし

民間の開発行為に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	行為の内容	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
1	矢木 2 丁目 6 9 - 3	住宅建設	4 月 2 日	277m ²	試掘	無	支障なし
2	法光寺町 5 7	住宅建設	4 月 6 日	180m ²	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
3	福増町南 2 8 4	住宅建設	4 月 10 日	234.5m ²	試掘	有	協議要 (福増遺跡)
4	高畠 3 丁目 1 3 4 、 1 3 5	宅地造成	4 月 12 日	1,204m ²	試掘	無	支障なし
5	近岡町 6 1 - 1	住宅建設	4 月 12 日	639m ²	試掘	無	協議要 (大友 E 遺跡)
6	小坂町北 1 1 3 - 1	宅地造成	4 月 13 日	1,852m ²	試掘	無	支障なし
7	南新保町ニ 9 2 - 1	資材置場	4 月 11 日	792m ²	試掘	無	支障なし

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
8	笠舞1丁目269	住宅建設	4月16日	171m ²	試掘	無	支障なし (笠舞A遺跡)
9	月浦町口99-1	仮設事務所建設	4月16日	2,228m ²	試掘	無	支障なし
10	湊3丁目8-5	事務所建設	4月17日	5,000m ²	試掘	無	支障なし
11	窪4丁目461	売買	4月18日	268m ²	試掘	無	支障なし (窪遺跡)
12	伏見台3丁目126	住宅建設	4月18日	224m ²	試掘	無	支障なし (寺地向田遺跡)
13	佐奇森町イ26-16	住宅建設	4月19日	115.7m ²	試掘	無	支障なし
14	金石東1丁目174-1	住宅建設	4月25日	194.9m ²	試掘	無	支障なし
15	高柳町6字24	住宅建設	5月8日	1,137m ²	試掘	有	協議要
16	彦三町1丁目13-7	住宅建設	5月9日	1,12.7m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
17	上安原町447	住宅建設	5月11日	883.5m ²	試掘	無	支障なし (上安原遺跡)
18	広岡1丁目1106外2筆	店舗建設	5月14日	1,068.8m ²	試掘	無	支障なし
19	古府町南591	住宅建設	5月14日	162.4m ²	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
20	寺地2丁目51-2	住宅建設	5月21日	293.8m ²	試掘	無	支障なし (有松C遺跡)
21	小池町南30、31、32	福祉施設建設	5月21日	2,423m ²	試掘	無	支障なし
22	材木町459外5筆	宅地分譲	5月22日	1,096.8m ²	試掘	無	支障なし
23	高畠1丁目320	宅地造成	6月5日	283m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
24	北塙町西33	住宅建設	6月7日	276m ²	試掘	無	支障なし (北塙A遺跡)
25	南新保町ト120-1	看板設置	6月5日	1.5m ²	立会	無	支障なし (南新保三枚田遺跡)
26	福増町南296	住宅建設	6月12日	331m ²	試掘	無	支障なし (福増遺跡)
27	塙崎町口33-1	店舗建設	6月12日	1,943.4m ²	試掘	無	支障なし
28	泉野町5丁目94	住宅建設	6月14日	251.9m ²	試掘	無	支障なし (泉野遺跡)
29	東兼六町5	住宅建設	6月14日	449.9m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
30	宝町482-1	施設建替	6月15日	1,771.9m ²	試掘	無	支障なし
31	米泉町2丁目38-1	住宅建設	6月19日	318m ²	試掘	無	支障なし (米泉遺跡)
32	古府町南1079-4、 1079-7	宅地造成	6月19日	184m ²	試掘	無	支障なし (黒田町遺跡)
33	古府3丁目150-1	屋外広告板設置	6月21日	0.4m ²	試掘	無	支障なし (古府クルビ遺跡)
34	玉鉢5丁目13外5筆	店舗建設	6月26日	1706m ²	試掘	無	支障なし

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
35	直江町ホ91	集合住宅建設	6月29日	1,543.6m ²	試掘	無	支障なし (直江西遺跡)
36	尾張町2丁目433、434	住宅建設	7月9日	143.9m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
37	有松3丁目7	住宅建設	7月13日	350m ²	試掘	無	支障なし
38	藤江南1丁目41、42	住宅建設	7月19日	538.6m ²	試掘	無	支障なし (藤江A遺跡)
39	薬師堂町ハ16	変電所建物増築	7月19日	112.9m ²	試掘	無	支障なし (薬師堂遺跡)
40	大額2丁目57外15筆	スポーツクラブ建設	7月20日	4,171.5m ²	試掘	無	支障なし
41	みどり1丁目121	住宅建設	7月25日	203.8m ²	試掘	無	支障なし (上安原緑団地遺跡)
42	御所町辰25-1外7筆	駐車場造成	7月25日	1,912m ²	試掘	無	支障なし
43	北安江1丁目1106外2筆	共同住宅建設	8月2日	1,207.4m ²	試掘	無	支障なし
44	有松3丁目5外2筆	介護施設建設	8月2日	1,872m ²	試掘	無	支障なし
45	みどり1丁目130	住宅建設	8月6日	203.4m ²	試掘	無	支障なし (上安原緑団地遺跡)
46	泉本町4丁目210外2筆	共同住宅建設	8月6日	1,134.5m ²	試掘	無	支障なし
47	彦三町1丁目7-31	住宅建設	8月10日	144.2m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡(彦三町1丁目7番地点))
48	夕日寺町ホ174	住宅建設	8月17日	195.8m ²	試掘	無	支障なし (夕日寺跡)
49	高尾台1丁目186	住宅建設	8月17日	344.5m ²	試掘	無	支障なし (高尾天神堂遺跡)
50	四十万3丁目386	住宅建設	8月17日	279.3m ²	試掘	無	支障なし (三十刈遺跡)
51	彦三町2丁目243	建物等撤去	8月10日	3,336.4m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡(彦三町2丁目9番地点))
52	高尾台2丁目27	宅地造成	8月10日	1,567.1m ²	試掘	無	支障なし
53	若宮2丁目72、82	工場建設	8月8日	9,858m ²	試掘	無	支障なし
54	南新保町ハ36-2、37	共同住宅建設	8月8日	1,156m ²	試掘	有	協議要 (南新保D遺跡)
55	古府3丁目153	看板設置	8月16日	1.8m ²	立会	無	支障なし (古府クルビ遺跡)
56	泉本町3丁目67外11筆	高等学校校舎建替	8月24日	16,493m ²	試掘	無	支障なし
57	武藏町438-1、442	ホテル建設建替	8月29日	106.8m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
58	広岡1丁目1001	事務所建設	8月29日	1,094m ²	試掘	無	支障なし
59	彦三町1丁目404	住宅建設	9月4日	77.6m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
60	小坂町西114-1外3筆	店舗建設	9月4日	2,110m ²	試掘	無	支障なし
61	いなほ1丁目17	製品格納倉庫建設	9月5日	17,943m ²	試掘	無	支障なし

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
62	黒田2丁目72	住宅建設	9月5日	131m ²	試掘	無	支障なし (黒田B遺跡)
63	専光寺町タ62外21筆	宅地造成	9月5日	5,452m ²	試掘	無	支障なし
64	横枕町イ31-5	住宅建設	9月11日	135m ²	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
65	法光寺町88-1外3筆	住宅建設	9月11日	223m ²	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
66	観法寺町イ40	住宅建設	9月11日	700m ²	試掘	有	協議要 (観法寺遺跡)
67	湊3丁目1-1	事務所建設	9月12日	2,212.6m ²	試掘	無	支障なし (近岡遺跡)
68	金石本町ハ43-2外14筆	宅地造成	9月12日	5,502.6m ²	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡)
69	石引4丁目19	住宅建設	9月14日	124.2m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
70	尾張町2丁目43	住宅建設	9月14日	122m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
71	稚日野町北75-1外2筆	店舗建設	9月19日	1,164.6m ²	試掘	無	支障なし
72	無量寺4丁目73	事務所建設	9月20日	1,368m ²	試掘	無	支障なし (畠田・無量寺遺跡)
73	三社町144-4	住宅建設	9月25日	66.9m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
74	駅西本町4丁目512、513	物置建設	9月25日	358.6m ²	試掘	無	支障なし (西念クボ遺跡)
75	磯部町ヌ31-3、32-3	診療所建設	10月4日	999m ²	試掘	無	支障なし
76	磯部町ヌ31-4、32-1	調剤薬局建設	10月4日	499m ²	試掘	無	支障なし
77	彦三町1丁目9-11-1	住宅建設	10月4日	77m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
78	弥勒町カ138-3外5筆	共同住宅建設	10月18日	2,035.8m ²	試掘	無	支障なし
79	高畠2丁目61外2筆	宅地造成	9月28日	833m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
80	玉鉢町甲3-1	住宅建設	10月9日	105.6m ²	試掘	無	支障なし (玉鉢B遺跡)
81	御供田町ニ6-1外2筆	共同住宅建設	10月9日	1,236.3m ²	試掘	無	支障なし
82	大手町88	住宅建設	10月16日	165.2m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡(前田氏(長種系)屋敷跡地区))
83	元菊町177	売買	10月18日	36m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
84	畠田中2丁目225	住宅建設	10月18日	586m ²	試掘	無	支障なし (畠田御台場遺跡)
85	彦三町1丁目243	住宅建設	10月19日	270m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
86	福増町南282	住宅建設	10月22日	208m ²	試掘	無	支障なし (福増遺跡)
87	福増町南246-1	住宅建設	10月22日	167m ²	試掘	無	支障なし (福増遺跡)
88	松村7丁目225	住宅建設	10月15日	183.6m ²	試掘	無	支障なし (松村A遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
89	芝原町ト4-1	住宅建設	10月25日	400m ²	試掘	無	支障なし (東町遺跡)
90	観音堂町ヌ32-1外2筆	資材置き場造成	10月25日	1,670m ²	試掘	無	支障なし
91	高尾3丁目85-2外2筆	住宅建設	10月30日	268.9m ²	試掘	無	支障なし (高尾新町遺跡)
92	金石本町口17-5外2筆	住宅建設	10月31日	88.9m ²	試掘	有	協議要 (金石本町遺跡)
93	尾張町2丁目9	売買	11月26日	405.6m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
94	彦三町1丁目669	住宅建設	11月26日	123.5m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
95	古府町南575	住宅建設	11月26日	188.2m ²	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
96	高尾南3丁目157外5筆	住宅建設	11月5日	2,362m ²	試掘	無	支障なし
97	湊4丁目7-1、8	工場建設	11月6日	10,863m ²	試掘	無	支障なし
98	芳斎2丁目510	児童福祉施設建設	11月13日	1,107.7m ²	試掘	無	支障なし
99	畝田西3丁目212	駐車場造成	11月15日	50m ²	試掘	無	支障なし (畝田遺跡)
100	高畠1丁目315	宅地造成	11月28日	282.8m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
101	直江町ホ80、219-2	住宅建設	12月4日	407.7m ²	試掘	無	支障なし
102	吉原町ハ26-1外2筆	店舗建設	12月3日	1,103m ²	試掘	無	支障なし
103	横川2丁目70	売買	12月4日	277m ²	試掘	有	協議要 (高橋セボネ遺跡)
104	高柳町1-1	事務所新築	12月5日	215m ²	試掘	無	支障なし
105	瓢箪町845	簡易宿所建設	12月5日	123.6m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
106	高畠1丁目315	住宅建設	12月5日	141.5m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
107	高尾台1丁目361	住宅建設	12月6日	310m ²	試掘	無	支障なし (高尾新マトバ遺跡)
108	香林坊2丁目274	簡易宿所建設	12月6日	107.9m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
109	下松原町49-1	店舗建設	12月6日	54.9m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
110	高岡町406	住宅建設	12月10日	116.8m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
111	辰巳町イ18-2外116筆	宅地造成	1月4日	44,094m ²	試掘	有	協議要 (末古窯跡群)
112	南新保町、大友町他	土地区画整理事業	1月4日	407,265m ²	試掘	有	協議要 (南新保三枚田遺跡他)
113	法光寺町90-1	住宅建設	12月29日	267m ²	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
114	高岡町65	簡易宿所建設	1月4日	75.9m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
115	高岡町195-1	店舗兼住宅	12月26日	87.4m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
116	笠舞2丁目210	売買	1月4日	152m ²	試掘	無	支障なし (笠舞B遺跡)
117	八日市5丁目523外4筆	宅地造成	1月10日	1,824m ²	試掘	無	支障なし
118	泉2丁目632、633	農地転用	1月18日	1,007m ²	試掘	無	支障なし
119	黒田1丁目75-2	事務所併用 共同住宅建設	1月24日	83.8m ²	試掘	無	支障なし (黒田町遺跡)
120	百坂町ハ10-1外10筆	宅地分譲	1月22日	2,016m ²	試掘	無	支障なし
121	小坂町北87、88、89	宅地造成	1月22日	2,942m ²	試掘	無	支障なし
122	円光寺2丁目213、215	住宅建設	1月24日	205.6m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
123	尾張町1丁目319、323	住宅建設	1月24日	160m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
124	八日市町5丁目493-1	店舗建設	2月4日	835.6m ²	試掘	無	支障なし (八日市ヤスマル遺跡)
125	松村7丁目53-26	住宅建設	2月8日	224.9m ²	試掘	無	支障なし (松村A遺跡)
126	近岡町227-4、 227-5	住宅建設	2月8日	198m ²	試掘	有	協議要 (近岡ナカシマ遺跡)
127	御供田町口7-1外17筆	宅地造成	2月13日	4,874m ²	試掘	無	支障なし
128	矢木2丁目165-20	住宅建設	2月14日	198m ²	試掘	無	支障なし (矢木マツノキダ遺跡)
129	四十万3丁目280	住宅建設	2月14日	272m ²	試掘	無	支障なし (三十苅遺跡)
130	専光寺町ワ68-1外2筆	宅地造成	2月19日	1,680m ²	踏査	無	支障なし
131	兼六元町345	住宅建設	2月25日	191m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
132	昭和町96-1	店舗建設	2月26日	1,443.6m ²	試掘	無	支障なし
133	保古3丁目29、30	アパート建設	2月26日	504m ²	試掘	無	支障なし
134	本町1丁目40-1	店舗建設	3月7日	423.2m ²	試掘	無	支障なし
135	福久東1丁目45外4筆	店舗建設	3月5日	3,266.6m ²	試掘	無	支障なし
136	大野町4丁目レ40-170	事務所建設	3月4日	2,804.6m ²	試掘	無	支障なし
137	増泉1丁目510	住宅建設	3月4日	266m ²	試掘	無	支障なし (増泉遺跡)
138	三口町火134外3筆	宅地造成	3月6日	995m ²	試掘	無	支障なし
139	湊2丁目44-2	店舗建設	3月6日	1,466.9m ²	試掘	無	支障なし
140	みどり1丁目251外5筆	店舗建設	3月8日	199.5m ²	試掘	無	支障なし (上安原緑団地遺跡)
141	香林坊2丁目224	住宅建設	3月11日	92m ²	試掘	有	協議要 (金沢城下町遺跡)
142	入江3丁目153	地下埋設物調査	3月13日	12,834.7m ²	試掘	無	支障なし

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
143	高畠2丁目138-2	住宅建設	3月12日	131.9m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
144	芳賀1丁目4	住宅建設	3月26日	121.7m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡(長氏屋敷跡地区))
145	八日市5丁目454外2筆	宅地造成	3月29日	1,248m ²	試掘	無	支障なし (八日市ヤスマル遺跡)
146	入江3丁目218	住宅建設	3月29日	246m ²	試掘	無	支障なし (玉鉢遺跡)
147	四十万3丁目273外5筆	有料老人ホーム建設	3月27日	1,557m ²	試掘	無	支障なし (三十戸遺跡)
148	瓢箪町955外2筆	住宅建設	3月20日	204m ²	試掘	無	支障なし

(別表) 土木工事のための発掘届・発掘通知一覧

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
1	93条(届)	兼六元町415番3外2筆	住宅新築工事	4月3日	4月3日	135.1m ²	金沢城下町遺跡(兼六元町3番地点)	慎重工事
2	93条(届)	近岡町61番1	駐車場造成	4月19日	4月19日	639m ²	大友E遺跡	慎重工事
3	93条(届)	福増町南284の一部	住宅建設	4月23日	4月23日	234.5m ²	福増遺跡	工事立会
4	93条(届)	西町四番丁15番4	住宅建設	4月24日	4月24日	80.39m ²	金沢城下町遺跡(西町四番丁地点)	慎重工事
5	93条(届)	笠舞1丁目269番	個人住宅建設	5月8日	5月8日	171m ²	笠舞A遺跡	工事立会
6	93条(届)	安江町24-2、27-6	ホテル建設	5月14日	5月14日	1,022.6m ²	金沢城下町遺跡(安江町1番地点)	発掘調査
7	93条(届)	高岡町445番地、446番地	駐車場機器設置	5月14日	5月14日	6,037.3m ²	金沢城下町遺跡(高岡町12番地点)	慎重工事
8	93条(届)	高柳町六字24番地	宅地造成	5月14日	5月14日	1,137m ²	高柳町六字遺跡	発掘調査
9	93条(届)	彦三町1丁目13番7	個人住宅建設	5月17日	5月17日	112.7m ²	金沢城下町遺跡(彦三町1丁目13番地点)	工事立会
10	93条(届)	兼六元町19番1外12筆	有料老人ホーム葬儀場	5月30日	5月30日	1,206.5m ²	金沢城下町地点(兼六元町15番地点)	発掘調査
11	93条(届)	尾張町1丁目25番1、27番	店舗兼住宅	5月30日	5月30日	206.2m ²	金沢城下町地点(尾張町1丁目7番地点)	発掘調査
12	93条(届)	直江町赤215番1、215番4	個人住宅建設	6月7日	6月7日	255.4m ²	直江ニシヤ遺跡	工事立会
13	93条(届)	中屋南80番外5筆	貸駐車場造成	6月13日	6月13日	728m ²	中屋東遺跡	慎重工事
14	93条(届)	直江南2丁目82番	個人住宅建設	6月14日	6月14日	218.1m ²	直江北遺跡	工事立会
15	93条(届)	直江南2丁目79番	個人住宅建設	6月14日	6月14日	243.4m ²	直江北遺跡	工事立会
16	93条(届)	武蔵町123番	ホテル等建設(増築)	6月28日	6月28日	371.5m ²	金沢城下町遺跡(武蔵町5番地点)	工事立会
17	93条(届)	古府3丁目150番1の一部	広告板設置工事	6月21日	6月21日	47m ²	古府クルビ遺跡	工事立会
18	93条(届)	直江町赤91番の一部、231番	長屋住宅建設	7月9日	7月9日	1,543.9m ²	直江西遺跡	工事立会
19	93条(届)	寺中町へ28番	集合住宅	7月10日	7月10日	66m ²	寺中遺跡	工事立会

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
20	93条(届)	木曳野2丁目68番	住宅増築	7月10日	7月10日	11.5m ²	畠田・寺中遺跡	工事立会
21	93条(届)	近岡町133番1	個人住宅建設	7月23日	7月23日	260m ²	大友E遺跡	工事立会
22	93条(届)	戸板5丁目2外3筆	店舗新築	8月16日	8月16日	1,082.5m ²	桜田・示野中遺跡	工事立会
23	93条(届)	彦三町1丁目7-31	個人住宅建設	8月21日	8月21日	144.2m ²	金沢城下町遺跡 (彦三町1丁目7番地点)	慎重工事
24	93条(届)	小将町8番5号	電線管等埋設	8月27日	8月27日	2.5m ²	金沢城下町遺跡 (小将町8番地点)	工事立会
25	93条(届)	木曳野1丁目27番	個人住宅建設	8月28日	8月28日	234.2m ²	畠田・寺中遺跡	工事立会
26	93条(届)	南新保町へ36-2、37	集合住宅建築	9月3日	9月3日	1,156.2m ²	南新保D遺跡	工事立会
27	93条(届)	木曳野3丁目229番	個人住宅建築	9月5日	9月5日	306.9m ²	桂町南遺跡	工事立会
28	93条(届)	高柳町六字24番	個人住宅建築	9月10日	9月10日	1,141.5m ²	高柳町六字遺跡	工事立会
29	93条(届)	石引4丁目19番	個人住宅建設	9月18日	9月18日	125.4m ²	金沢城下町遺跡 (石引4丁目1番地点)	慎重工事
30	93条(届)	直江南2丁目81	共同住宅建築	9月14日	9月14日	359.6m ²	直江北遺跡	工事立会
31	93条(届)	福増町北1091番	個人住宅建設	9月25日	9月25日	230m ²	安原工業団地A遺跡	工事立会
32	93条(届)	観法寺い40番	盛土造成	10月12日	10月12日	700m ²	観法寺遺跡	慎重工事
33	93条(届)	木曳野1丁目55番	個人住宅建設	10月12日	10月12日	183m ²	畠田・寺中遺跡	無届
34	93条(届)	笠舞1丁目289外7筆	老人ホーム及び駐車場	10月18日	10月17日	145.5m ²	笠舞A遺跡	慎重工事
35	93条(届)	武蔵町128、129	個人住宅増築	11月5日	11月5日	5.5m ²	金沢城下町遺跡 (武蔵町7番地点)	慎重工事
36	93条(届)	米泉町2丁目38-1	個人住宅建設	11月8日	11月8日	156.8m ²	米泉遺跡	工事立会
37	93条(届)	尾山町261-1、321-1、322	焼却炉上屋建設	11月30日	11月30日	13.2m ²	金沢城跡	慎重工事
38	93条(届)	金石本町口17番5外2筆	個人住宅建設	12月3日	12月3日	88.9m ²	金石本町遺跡	工事立会
39	93条(届)	瓢箪町845番	ホテル建設	12月5日	12月5日	235.2m ²	金沢城下町遺跡 (瓢箪町22番地点)	工事立会
40	93条(届)	直江南1丁目76番	個人住宅建設	12月10日	12月10日	278.3m ²	直江ニシヤ遺跡	工事立会
41	93条(届)	高岡町406番	個人住宅建設	12月14日	12月14日	113.3m ²	金沢城下町遺跡 (高岡町12番地点)	慎重工事
42	93条(届)	畠田東4丁目1119番	共同住宅建築	1月9日	1月9日	347.9m ²	畠田C遺跡	工事立会
43	93条(届)	神野3丁目8番、18番	宅地造成	1月15日	1月15日	600m ²	神野遺跡	慎重工事
44	93条(届)	横川2丁目70番1	分譲住宅建設	1月15日	1月15日	138.2m ²	高橋セボネ遺跡	慎重工事
45	93条(届)	横川2丁目70番2	分譲住宅建設	1月15日	1月15日	138.2m ²	高橋セボネ遺跡	慎重工事
46	93条(届)	木曳野1丁目27番	カーポート建設	1月21日	1月21日	234.2m ²	畠田・寺中遺跡	工事立会
47	93条(届)	直江南2丁目80番	共同住宅建築	1月22日	1月22日	243.3m ²	直江北遺跡	工事立会

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
48	93条 (届)	高岡町195番1、192番1	店舗併用 住宅建設	1月7日	1月7日	87.4m ²	高岡町遺跡	工事立会
49	93条 (届)	金石東1丁目170番3	倉庫建設	1月12日	1月12日	365.1m ²	金石本町遺跡	慎重工事
50	93条 (届)	彦三町1丁目669	個人住宅建設	2月18日	2月18日	123m ²	金沢城下町遺跡 (彦三町1丁目15番地点)	工事立会
51	93条 (届)	直江南2丁目41番、46番	集合住宅建設	2月19日	2月19日	472.7m ²	直江北遺跡	工事立会
52	93条 (届)	近岡町227番4、227番5	個人住宅建設	2月19日	2月19日	199.2m ²	近岡ナカシマ遺跡	工事立会
53	93条 (届)	笠舞1丁目253番12	分譲住宅建設	2月20日	2月20日	150.8m ²	笠舞A遺跡	慎重工事
54	93条 (届)	米泉町2丁目38-1	戸建住宅建設	3月5日	3月5日	318.1m ²	米泉遺跡	工事立会
55	93条 (届)	直江町赤219-1	分譲住宅建設	3月13日	3月13日	318.1m ²	直江ニシヤ遺跡	工事立会
56	93条 (届)	直江町赤219-3	分譲住宅建設	3月13日	3月13日	165.2m ²	直江ニシヤ遺跡	工事立会

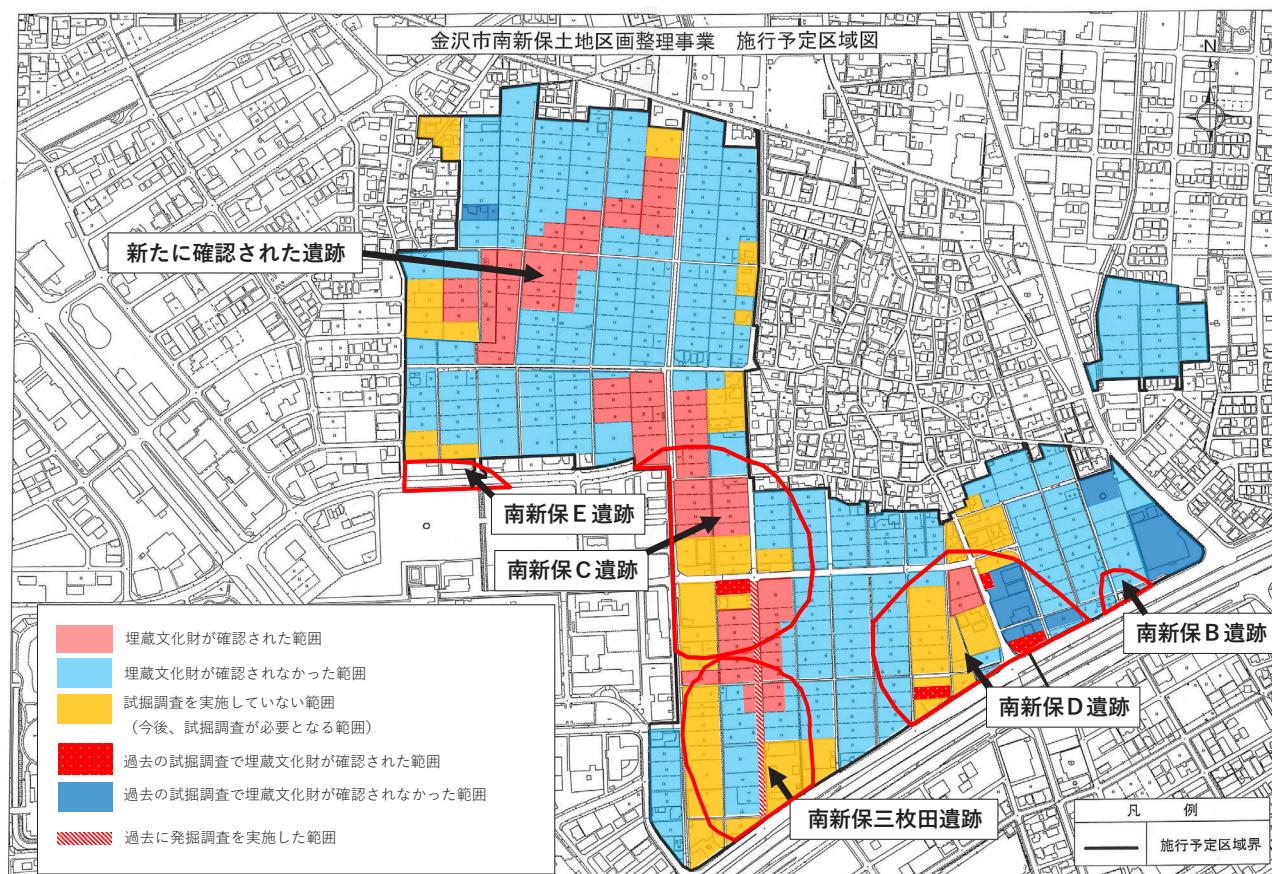
(2) 金沢市南新保土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘確認調査報告

平成31年1月4日、金沢市南新保土地区画整理事業準備会より標記事業に先立ち埋蔵文化財の確認調査依頼が提出された。これにより南新保町、大友町地内において試掘確認調査を実施した。調査は文化財保護課職員立ち合いのもと、掘削機を用いて実施した。

調査では、周知の埋蔵文化財包蔵地である南新保C遺跡、南新保D遺跡、南新保三枚田遺跡で遺構と遺物を確認したほか、新発見の遺跡を確認した。

以下に、試掘調査の概要を掲載する。「番号」は試掘調査地点を示し、図中の番号と一致する。「深さ」は遺構面もしくは地山までの深さをcm単位で示しており、一部地山未到達の個所は（　）付きとした。遺跡が確認された範囲は図中に赤塗りで示した。

なお、遺跡の有無の判断は、試掘調査地点において遺構・遺物の有無及び隣接地調査結果により行っている。



番号	cm	遺構	遺物
1	(100)	×	×
2	(100)	×	×
3	30	×	×
4	50	×	×
5	(90)	×	×
6	40	×	×
7	(90)	×	×
8	(80)	×	×
9	(80)	×	×
10	(90)	×	×
11	50	×	×
12	40	土坑	土師器
13	40	×	土師器
14	50	溝	土師器
15	50	×	×

番号	cm	遺構	遺物
16	20	×	土師器
17	20	×	土師器
18	50	土坑・溝	土師器
19	70	×	×
20	(90)	×	×
21	50	×	×
22	50	×	×
23	40	×	×
24	40	×	×
25	30	×	須恵器
26	30	×	×
27	40	×	×
28	50	×	×
29	30	小穴	土師器
30	30	×	×

番号	cm	遺構	遺物
31	(60)	×	×
32	40	×	×
33	50	×	×
34	20	×	×
35	20	×	×
36	20	×	×
37	30	×	土師器
38	30	溝	×
39	30	×	×
40	30	×	×
41	30	×	×
42	50	×	×
43	50	×	×
44	40	×	×
45	20	×	×

番号	cm	遺構	遺物
46	30	×	×
47	30	×	×
48	30	×	×
49	20	土坑	土師器
50	30	×	×
51	20	×	×
52	40	×	×
53	30	×	×
54	20	×	×
55	20	×	×
56	40	×	×
57	30	×	×
58	(60)	×	×
59	40	×	×
60	(60)	×	×
61	20	×	土師器
62	30	溝	土師器
63	30	土坑	×
64	30	土坑	土師器
65	30	小穴	土師器
66	30	×	×
67	40	×	須恵器
68	20	×	×
69	30	溝	×
70	50	土坑	土師器
71	40	土坑	×
72	40	溝	×
73	20	溝	×
74	50	×	×
75	30	小穴	×
76	(50)	×	×
77	40	×	×
78	40	溝	×
79	20	溝	×
80	30	溝	×
81	(50)	×	×
82	40	×	×
83	20	×	×
84	40	×	土師器
85	20	×	×
86	40	×	×
87	20	×	×
88	(50)	×	×
89	50	×	×
90	30	×	×
91	30	×	×
92	30	×	×
93	40	×	×
94	30	小穴	×
95	30	溝	×
96	50	×	×
97	50	×	×
98	30	×	×
99	30	×	×
100	20	×	×
101	(60)	×	×
102	(50)	×	×
103	(60)	×	×
104	20	×	×
105	40	×	×
106	(50)	×	×
107	(50)	×	×
108	(50)	×	×
109	(50)	×	×
110	(50)	×	×
111	50	×	須恵器
112	(50)	×	×
113	(50)	×	×

番号	cm	遺構	遺物
114	(50)	×	×
115	(40)	×	×
116	(60)	包含層	土師器
117	40	×	×
118	(50)	×	×
119	30	土坑	弥生土器
120	50	土坑	弥生土器
121	40	×	×
122	30	小穴	土師器
123	30	小穴	土師器
124	50	×	土師器
125	(50)	×	×
126	30	溝	土師器
127	(50)	×	×
128	40	溝	土師器
129	20	×	×
130	40	×	×
131	20	×	×
132	30	×	須恵器
133	(50)	×	土師器
134	(50)	×	須恵器
135	90	×	×
136	40	×	×
137	50	×	×
138	20	×	×
139	20	×	×
140	30	×	×
141	20	×	×
142	30	×	土師器
143	50	×	×
144	20	×	×
145	20	×	×
146	(50)	×	×
147	20	×	×
148	(50)	×	×
149	(50)	×	×
150	(50)	×	×
151	(60)	×	須恵器
152	(50)	×	×
153	(50)	×	×
154	(50)	×	×
155	20	×	土師器
156	(50)	×	×
157	(50)	×	×
158	(40)	×	×
159	(50)	×	×
160	20	小穴	土師器
161	30	×	×
162	(50)	×	×
163	30	×	×
164	20	×	×
165	20	×	×
166	(55)	×	×
167	(50)	×	×
168	(50)	×	×
169	(50)	×	×
170	(50)	×	×
171	(50)	×	×
172	(50)	×	×
173	30	×	×
174	20	×	×
175	30	×	×
176	20	小穴	×
177	(50)	×	×
178	15	小穴	×
179	20	溝	土師器
180	(50)	×	×
181	20	×	×

番号	cm	遺構	遺物
182	30	×	×
183	30	小穴	×
184	30	溝	土師器
185	30	×	×
186	(50)	×	×
187	(50)	×	×
188	30	土坑	土師器
189	(50)	×	土師器
190	40	溝	土師器
191	(50)	溝	土師器
192	30	溝	土師器
193	(50)	×	×
194	(50)	×	土師器
195	(50)	×	×
196	40	×	土師器
197	40	×	土師器
198	30	溝	×
199	50	×	×
200	(50)	×	×
201	30	×	×
202	40	×	土師器
203	40	溝	土師器
204	40	溝	土師器
205	30	×	×
206	40	×	×
207	(50)	×	×
208	(50)	×	×
209	30	×	×
210	(50)	×	×
211	(50)	×	×
212	(50)	×	×
213	40	×	×
214	40	×	×
215	(50)	×	×
216	(50)	×	×
217	40	×	×
218	(50)	×	×
219	40	×	×
220	(50)	×	×
221	40	×	×
222	(50)	×	×
223	(50)	×	×
224	30	×	×
225	(50)	×	×
226	20	×	×
227	20	×	×
228	20	×	×
229	20	土坑	土師器
230	(50)	×	×
231	(50)	×	×
232	40	×	×
233	30	×	×
234	(50)	×	×
235	(50)	×	×
236	40	×	×
237	20	×	×
238	30	×	×
239	(50)	×	×
240	(50)	×	×
241	40	×	×
242	40	×	×
243	20	×	×
244	20	×	×
245	(50)	×	×
246	(50)	×	×
247	(50)	×	×
248	(50)	×	×
249	(50)	×	×
250	(50)	×	×

3. 教育・普及・啓発活動事業

(1) 金沢縄文ワールド

概要

金沢市いなほ1丁目に所在する中屋サワ遺跡は、縄文時代晩期を主体とした多量かつ多様な土器や漆塗製品を含む木製品、石製品などが出土した遺跡である。特に漆塗製品は遺存状態が良好なものが多く、編みカゴを漆で塗り固めた籃胎漆器、漆塗りの装飾弓、腕輪、豊饒など、多彩な遺物が出土しており、当時の漆工技術の実態がよく示されている。縄文土器には北陸地方の縄文時代晩期の形式をよく示すだけでなく他地域の影響が見られるものも含まれている。これらは北陸地方における縄文時代晩期の文化と生活様式を良く示しているとして、平成26年8月21日に重要文化財に指定された。

チカモリ遺跡は金沢市新保本5丁目に所在し、昭和50年代の発掘調査で環状木柱列と呼ばれる半裁したクリ材を円形に立て並べた建造物が確認されたほか、計349点にも及ぶ木柱根が出土している。遺跡は中心部がチカモリ遺跡公園として整備され、昭和62年2月23日に国史跡に指定されたほか、出土した木柱根のうち57点が石川県指定文化財に指定されている。

金沢市埋蔵文化財センターでは、これら縄文時代晩期の貴重な資料を適切に保管するとともに広く一般に展示・公開することを目的として、平成27年11月8日に「金沢縄文ワールド」を設置した。館内には常設展示コーナーと企画展示コーナーを設け、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」を主体に様々な視点から金沢市内の縄文時代を紹介する展示を行っているほか、2階には勾玉作りや縄文かご作りなどの各種古代体験に挑戦できる縄文体験コーナーを併設している。また、重要文化財指定物件を保管する特別収蔵庫を併設し、貴重な考古資料の保存継承を図っている。

所在地 石川県金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内

開館時間 9時30分から17時00分まで（入館は16時30分まで）

休館日 月曜日、年末年始（12/29～1/3）

※月曜日が祝日の場合は開館し、その次の平日に休館

入館料 無料

入館者数 平成28年度 3,102人（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成29年度 3,209人（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

平成30年度 3,803人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）



常設展示

金沢縄文ワールドにおいて重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」及び国史跡「チカモリ遺跡」出土品を常設展示するにあたり、貴重な考古資料を適切に保存管理しつつ、その魅力を広く公開するという基本理念のもと、以下のコンセプトによる展示を行っている。

1. 中屋サワ遺跡やチカモリ遺跡の出土品の特色及び独自性を演出する展示
2. 若年層から高齢者まで、幅広いニーズに対応できる演出
3. 「触れて、楽しみ、学ぶ」ことができる体験型展示手法の採用
4. 各種分析や実験考古学など最新の研究成果を反映した展示

これにメンテナンス性や環境への配慮を加えた結果、常設展示では「巨木の文化」「漆と装飾」の2大テーマに基づいた展示・解説を企画したほか、タッチパネルを操作して金沢市内の縄文遺跡や発掘調査の流れなどが検索できる「縄文の考古楽」コーナー、ゲームを通して縄文時代の石斧や弓の使い方を体験できる「実験考古学」コーナーを併設した。

■巨木の文化

展示室中央にシンボル展示としてチカモリ遺跡の環状木柱列を室内復元し、大型スクリーンの映像とともに往時の環境を再現している。また、中屋サワ遺跡から出土した豊富な木製品を展示し、縄文時代晩期の優れた木工技術を紹介している。



シンボル展示



常設展示「巨木の文化」

■漆と装飾

中屋サワ遺跡から出土した漆塗木製品や縄文土器を展示し、その高い技術と独自のデザイン性を通して、縄文時代晩期の金沢に住んだ人々が持っていたワザと美意識を紹介している。特に漆塗木製品は籠胎漆器や木胎漆器、弓、櫛、腕輪など多岐に渡る第一級の資料を展示しており、当該時期の金沢における優れた漆芸文化の一端を垣間見ることができる。



「縄文の考古学」コーナー



常設展示「漆と装飾」

企画展示

企画展示コーナーでは、常設展示とは別に、毎回異なるテーマに基づいた展示を行い、金沢を中心とした北陸地方の遺跡と出土遺物を紹介している。平成30年度は計4回の企画展を開催した。

企画展「遺跡で知る！金沢のむかし」

会期 平成30年7月24日～平成30年9月17日

概要 昨年度の夏休み期間中に開催した、「夏休み自由研究応援企画 縄文時代はどんな時代？」に引き続き、今年度は弥生時代から江戸時代までの市内の遺跡を紹介した。企画展で金沢市内の各時代の有名な遺跡を時代毎に学習し、常設展の縄文時代を代表とするチカモリ遺跡や中屋サワ遺跡と併せて市内の遺跡について広く学べる場を提供了。

また、学習シートを作成し、企画展示を見学することでシートが完成するようにし、クイズ感覚で楽しく遺跡の学習が進められるようにした。子ども達が楽しく歴史に興味をもつ機会を提供する企画展とした。

展示資料 縄文時代（中屋サワ遺跡）：常設展示の中屋サワ遺跡出土品

弥生時代（西念・南新保遺跡）：壺、甕、高杯、桶、ヤリガンナ、重圏文鏡

古墳時代（神谷内古墳群）：壺、高杯、鉄斧、鉄刀、管玉

古代（上荒屋遺跡）：墨書き土器、長頸壺、横瓶、人形、木簡

中世（堅田館跡）：梅瓶、天目茶碗、土師器皿、すり鉢、鳴鏑

近世（広坂遺跡）：大皿、碗、瓶、灯明皿、火鉢

企画展「上荒屋遺跡展 - 東大寺の荘園跡 -」

会期 平成30年9月19日～平成30年12月16日

概要 上荒屋遺跡を含む横江荘が東大寺領となって1200年を記念する企画展である。

上荒屋遺跡は縄文時代晚期、弥生時代中期、古墳時代前期、奈良時代後半～平安時代、鎌倉時代前半の遺物が確認されている複合遺跡であるが、盛期を迎えるのは奈良・平安時代である。弘仁14(823)年に加賀国が立国し、上荒屋遺跡周辺は加賀国石川郡となった。それ以前の8世紀中頃から、上荒屋遺跡周辺は荘園として機能していたと

発掘調査により明らかになっている。そして、東大寺領横江荘の一部となったのは弘仁9(818)年からで、大規模な荘園へと発展した。

企画展では荘園の移り変わりや、荘園経営の貴重な資料となる遺物を展示した。

展示資料	「東大寺施入以前」	墨書き土器「田宮」、「綾庄」
	「東大寺施入後」	墨書き土器「東庄」
	「木簡と木製祭祀具」	木簡、斎串、人形、馬形、刀形、舟形
	「土製・金属製祭祀具と装身具」	水瓶、淨瓶、鉄鉢、瓦塔、素文鏡、鈴、瓔珞、丸鞆、巡方
	「容器類と馬具」	須恵器、土師器、木製容器、緑釉陶器、灰釉陶器、鞍(木製)、轡(鉄製)

企画展「北陸の土偶」

会期 平成30年12月18日～平成31年3月17日

概要 土偶は縄文時代に作られた人や動物をかたどった土製品であり、約1万年続く縄文時代を通して作られた。縄文人の精神や信仰などをあらわしたと考えられる土偶の姿は様々で、現代に生きる私たち日本人はその神秘的で多彩な表現力に強く引きつけられる。

土偶は主に東日本で多く出土し、その形態は時代とともに変化を見せる。縄文時代前期には板状の粘土に顔や体を表現した板状土偶が多く見られるが、縄文中期に入ると立体的な土偶が作られるようになる。後期には、それまで土偶が作られていなかった九州でも土偶が作られるようになり、東日本では座った形の土偶が現れるなど、作り方や形態が発達する。後期から晩期にかけて関東から東北地方では遮光器土偶が作られるようになり、さらに形や文様が芸術的になる。

企画展では、縄文時代の遺跡から出土する土偶や土製品に焦点をあて、北陸各地で見つかったそれらの遺物を展示し、縄文時代に生きた人々が作り続けた土偶や土製品の魅力や技術について紹介した。

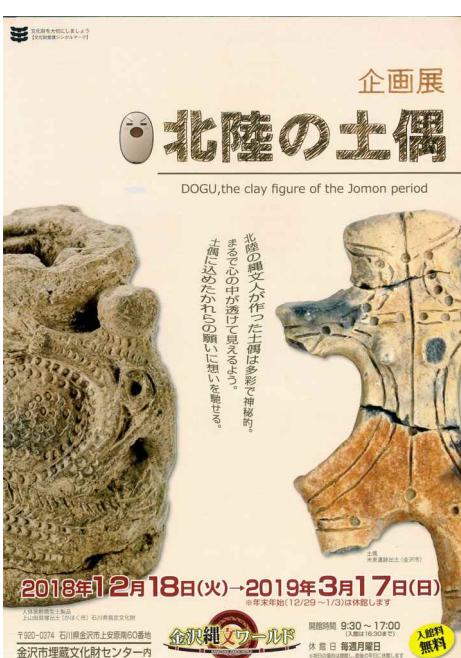
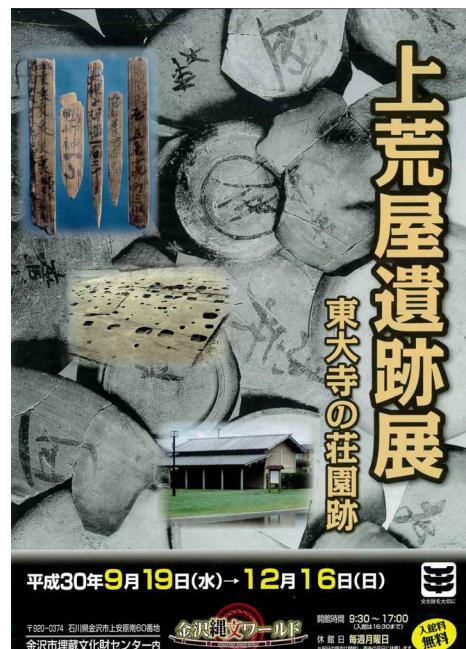
展示資料	石川県	金沢市米泉遺跡、金沢市笠舞遺跡、金沢市チカモリ遺跡、 金沢市中屋サワ遺跡、白山市乾遺跡、七尾市三引遺跡、 かほく市上山田貝塚
	富山県	富山市長山遺跡、砺波市徳万頼成遺跡
	福井県	福井市波寄遺跡、福井市糞置遺跡、福井市高柳遺跡、 永平寺町鳴鹿手島遺跡

企画展「石川中央都市圏考古資料展－中世の祈りと信仰－」

会期 平成31年3月19日～令和元年6月16日

概要 金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町の4市2町で構成される石川中央都市圏には、日本海に面した海岸線や靈峰白山を始めとする山麓、手取川や河北潟に代表される河川湖沼などの豊かな自然を背景として、縄文時代から近世まで、数多くの遺跡が立地している。本企画展は石川中央都市圏が連携して開催する2回目の考古資料展で、各市町を代表する中世の遺跡から出土した祈りと信仰に関する優品を厳選して公開した。

展示資料	金沢市	千木遺跡：銅造地蔵菩薩立像
		堅田館跡：青白磁梅瓶、青白磁梅瓶蓋、青磁双魚文坏、 金属製飾金具、銅製鈴、木製鞍、木製卷数板
	白山市	宮永ほじ川遺跡：瓦質花瓶、瓦質風炉、石鍋、瀬戸皿、珠洲焼 等 古宮遺跡：土師器皿
	かほく市	元女らんとう堂山石塚群：珠洲焼甕、珠洲焼鉢
	野々市市	富樫館跡：錫杖、土師器皿 粟田遺跡：青磁碗、染付碗
	三日市	A 遺跡：行火、古瀬戸灰釉碗
	津幡町	庄ナカナシマ遺跡：土師器皿 田屋森山遺跡：錢貨
	内灘町	小濱神社所蔵：錢貨



各企画展チラシ

縄文体験コーナー

金沢縄文ワールドの開設に併せ、金沢市埋蔵文化財センターの2階に「縄文体験コーナー」を併設し、様々な縄文体験を無料で実施している。同コーナーの体験メニューはいつでも体験できる通年メニューと、毎月内容が変わる期間限定メニューの2種類がある。いずれも縄文時代の文化や生業を追体験できる内容となっており、当館の体験型展示コンセプトの一翼を担っている。

通年メニュー

土器パズル 勾玉作り 古代衣装試着 拓本作り
ペーパークラフト ぬりえ

期間限定メニュー

縄文かご・コースター作り 土偶作り 土笛作り くみひも作り
うでわ作り はたおり

※期間限定メニューの開催時期はホームページ等でご確認いただきたい。

※ペーパークラフトは金沢縄文ワールドのホームページでダウンロードできる。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/bunkazaimain/maizou/15.html>

利用実績 平成28年度 1,919人（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成29年度 2,140人（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

平成30年度 2,322人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）



縄文体験コーナー



土器パズル



くみひも作り



はたおり



勾玉作り

金沢縄文ワールド見学バス助成制度

金沢縄文ワールドでは、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」等の展示を通して本市の縄文遺跡の魅力を紹介している。また、併設する縄文体験コーナーでは、勾玉作りなど様々な縄文文化を無料で体験することができる。当館では、金沢縄文ワールドを始めとした本市及び近郊の縄文遺跡の見学・体験を希望する小学校や関連団体に対し、往復のバス使用料を助成する制度を実施しており、歴史学習や校外活動に活用されている。見学コースは下記の4コースを設定しており、申込団体が希望するコースを選択できる。見学バス助成は予算上10団体程度を募集しているが、助成に依らない団体見学は隨時受け入れている。

①展示見学コース　－金沢縄文ワールドの展示と館内の見学－

行　　程　金沢縄文ワールド（展示見学、館内設備見学）

所要時間　約40分

②縄文文化体験コース　－金沢縄文ワールド展示見学と縄文体験－

行　　程　金沢縄文ワールド（展示見学、縄文体験（勾玉作り等））

所要時間　約90分

③縄文文化探訪コース　－金沢縄文ワールド展示見学と近郊の縄文遺跡めぐり－

行　　程　金沢縄文ワールド、御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間　約120分

④古代の里探訪コース　－金沢縄文ワールド展示見学とふるさとの国史跡めぐり－

行　　程　金沢縄文ワールド、上荒屋史跡公園、東大寺領横江荘遺跡荘家跡、
御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間　約120分

利用実績　平成28年度　7団体　288人

平成29年度　9団体　423人

平成30年度　6団体　312人



金沢縄文ワールドバス助成制度



縄文体験（勾玉作り）

(2) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成 12 年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について小学校 6 年生に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。

講座では、貫頭衣の試着、石を使ってのくるみ割り、縄文から古墳時代の遺物見学、最後に火起こしまたは勾玉作りを体験する。また、現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。この内容で、1 講座 100 分を所要する。

平成 22 年度からは、金沢市文化財ボランティア「うめばちの会」の協力のもと、公私協働で講座を実施している。今年度は 4 月 13 日の長田町小学校から 6 月 11 日の西南部小学校まで、計 27 校で 58 講座を開催した。うち、火起こしコースは 20 校 37 講座、勾玉作りコースは 7 校 21 講座を開催している。参加児童数は 1,928 名で、平成 12 年度からの累計は 33,135 名となった。

«過去 5 年間の事業実績»

実施年度	学校数	講座数	児童数
平成 26 年度	31	67	2,167
平成 27 年度	31	63	2,122
平成 28 年度	29	60	2,144
平成 29 年度	24	51	1,604
平成 30 年度	27	58	1,928



遺物見学



火起こし体験

(3) 金沢こども歴史探検隊

«過去5回の事業実績»

当センターでは平成15年度より、将来を担う子どもたちを対象に、さらなる歴史体感の場として、市内の史跡・建造物など、実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢こども歴史探検隊」を実施している。これは、ふるさとの歴史をより理解し、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護ってゆく

「金沢型の文化財保存活動」を実現する環境の形成を図ることが目的である。

今回は、第18回目として「金沢こども歴史探検隊 in 金沢城」を開催した。平成20年6月に国史跡となった「金沢城跡」を会場とし、金沢城の史跡見学とクイズラリーを行った。親子7組、18名が参加した。探検中は金沢文化財ボランティアうめばちの会会員が引率して史跡の解説およびこども達へのクイズ出題を行った。

第18回 「金沢こども探検隊 in 金沢城」

開催日：平成30年10月9日（日）

内 容：金沢城での史跡見学とクイズラリー

参加者：親子7組、18名



史跡見学の様子



クイズラリーの様子

(4) 市民ふるさと歴史研究会「低湿地遺跡の世界」

金沢市では、縄文時代晚期の貴重な資料を適切に保管し、広く一般に展示・公開する施設として、平成27年度に金沢市埋蔵文化財センター内に「金沢縄文ワールド」を開設した。主な展示内容は縄文時代晚期のチカモリ遺跡から発見された環状木柱列を館内再現したものとこれに関する映像ガイドス、同じく晚期の中屋サワ遺跡から出土した土器、石器、木製品であり、当遺跡出土品については重要文化財の指定を受けている。中屋サワ遺跡は水辺に位置する低湿地遺跡にあたり、豊富な木製品が出土している。新潟県の青田遺跡も中屋サワ遺跡と同じく低湿地遺跡であり、二つの遺跡を検討することを目的とした講演会を市民ふるさと歴史研究会として開催した。

講師の荒川隆史氏は、新潟県内で埋蔵文化財の発掘調査に従事され、青田遺跡の発掘調査も担当し、新潟県内の縄文遺跡についての造詣が深い。講演では青田遺跡の内容についてスライドを用いて紹介し、中屋サワ遺跡の内容との比較や自然科学分析によって明らかとなった情報など、内容は多岐に及ぶものであった。また、1階展示室を会場とした展示内容についての解説会では盛んな質疑応答が行われた。今後も積極的にこのような機会を設け、金沢における縄文文化の発信に努めていきたいと考えている。

実施日：平成30年11月4日（日）

午後1時30分～午後3時30分

講 師：荒川 隆史 氏

会 場：金沢市埋蔵文化財センター

2階 映像学習室

参加者：61名

«過去10年の事業実績»



荒川氏の解説

実施年度	タイトル	講師
平成21年度	「加賀八家本多家の歴史」	本多 政光 氏
平成22年度	「玉つくりから見る金沢の古墳時代」	河村 好光 氏
平成23年度	「加賀八家墓所からみる近世の社会」	宇佐美 孝 氏
平成24年度	「縄文の技と美 ～金沢市指定文化財中屋サワ遺跡の出土品特別公開」	岡村 道雄 氏
平成25年度	「もうひとつの前田家墓所 ～天徳院・高岡市前田利長墓所」	廣瀬 勇也 氏 宇佐美 孝 氏
平成26年度	中屋サワ遺跡出土品重要文化財指定記念シンポジウム「石川における縄文晚期の技術」 記念講演「縄文時代の工芸技術」	原田 昌幸 氏
平成27年度	縄文ワールド開設記念講演会「縄文時代の木の文化」	山田 昌久 氏
	国史跡指定シンポジウム「戦国の城と道の実像を探る」 記念講演「加越国境城跡群の歴史的意義」	千田 嘉博 氏
平成28年度	「縄文晩期に北陸地方が繁栄したのは何故か」	泉 拓良 氏
平成29年度	「動物の骨は語る」	覚張 隆史 氏
平成30年度	「低湿地遺跡の世界」	荒川 隆史 氏

(5) 出張！金沢縄文ワールド

金沢市と（公財）金沢まちづくり財団では、毎年10月第3日曜日の「金沢市緑と花の日」に合わせ、樹木や花の育て方・楽しみ方について関心を深め、緑あふれるまちづくりを促進することを目的とした「緑花フェスティバル」を開催している。同フェスティバルでは、緑化・美化功労者表彰や写真コンテスト、各種パフォーマンス、緑の相談窓口開設、作品展示などの各種イベントを実施しており、来場者に緑と花に親しみ理解を深める機会を提供している。

金沢市埋蔵文化財センターでは、平成29年度より同フェスティバルの開催に際し、「出張！金沢縄文ワールド」と題した縄文体験コーナーを出展し、金沢縄文ワールドと金沢市の縄文文化について周知を図っている。

平成30年度の同フェスティバルは10月20日（土）、21日（日）の2日間にわたり金沢市役所庁舎前広場にて開催され、当センターでは初日に「縄文あじろ編みミニしきもの作り」、2日目に「まが玉作り」の体験コーナーを出展し、初日は60名、2日目は45名の参加者があった。両日ともフェスティバル終了時刻までに用意した体験材料が全てなくなってしまうほどの盛況であり、当初の目的を完遂できたものと考えている。

「出張！金沢縄文ワールド」開催状況

実施年度	出展日	内容	人数
平成29年度	10月14日（土）	まが玉作り	70名
平成30年度	10月20日（土）	あじろ編みミニしきもの作り	60名
	10月21日（日）	まが玉作り	45名



出展ブース（しきもの作り）



実施状況（まが玉作り）

(6) 史跡活用事業

一般市民に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的に各種イベントを開催、これらを通じて文化財愛護の精神を培う機会の創出を目的としている。対象は小学校高学年から中学生およびその保護者を主とし、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。各イベントの実施概要は以下の通りである。

なお、開催にあたっては石川県史跡整備市町協議会から助成金をうけている。

【チカモリ縄文まつり】

国指定史跡チカモリ遺跡の縄文時代の遺構を復元したチカモリ遺跡公園を会場に、縄文時代の生活を体験するイベントを平成7年度より行っている。

実施日時：平成30年6月3日（日）

午前9時30分～午後2時

主な内容：火起こし体験 勾玉作り 土器作り
縄文食試食体験 クルミ割り体験

参加者：300人

委託先：金沢市西南部公民館振興協力会



まつりの様子



火起こし体験の様子

【史跡フェスタみわ】

国指定史跡東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡の奈良・平安時代の初期荘園の風景を再現した上荒屋史跡公園を題材に、奈良・平安時代の生活体験イベントを平成9年度より行っている。

実施日時：平成30年7月21日（土）

午前9時30分～12時30分

主な内容：古代衣裳試着体験 古代食試食体験
火起こし体験 勾玉作り 土器作り

参加者：120人

委託先：金沢市三和公民館振興協力会



学習会の様子

【チカモリ学習会】

チカモリ縄文まつりの一環として、地域の方々にチカモリ遺跡および縄文時代の生活について理解を深めてもらうため、学習会を開催した。

実施日：平成30年7月28日（土）

主な内容：縄文時代の生活の様子について

講師：谷口担当課長補佐

（金沢市埋蔵文化財センター）

参加者：約40名

(7) 現地説明会・遺物見学会

発掘調査の成果を市民に還元する活動のひとつとして、現地説明会を実施している。この現地説明会は、市民が実際に発掘調査を行っている現場を直に見学できる数少ない機会となっており、埋蔵文化財を身近に感じることできるため、毎回好評を得ている。

今年度は、千田北遺跡において現地説明会を開催し、国内最古の曲物棺墓や堀などの現地見学および国内初となる僧形神立像などの出土遺物の見学を行った。また、千田北遺跡から出土した金箔で装飾した木製笠塔婆については、埋蔵文化財センターにて遺物見学会を開催し、多くの参加者があった。

遺跡名	場 所	開催日	対象	参加者数
千田北遺跡	金沢市千田町地内	平成 30 年 8 月 24 日	市民	130 名
千田北遺跡	金沢市埋蔵文化財センター	平成 31 年 2 月 17 日	市民	200 名

千田北遺跡現地説明会



千田北遺跡出土木製笠塔婆見学会



(8) 史跡探訪会

【二俣本泉寺探訪会】

「金沢市歴史探訪月間」の開催に合わせて、二俣本泉寺を訪れる探訪会を行った。市指定建造物の山門、発掘調査を実施した県指定名勝九山八海の庭を訪れ、本泉寺所蔵の県指定文化財版本三帖和讃並正念仏偈や蓮如上人の御文などを見学した。また、本泉寺の歴史については、ご住職の松扉氏より解説を受けた。

上記見学の後、本堂内にて、加賀一向一揆関連遺跡である砂子坂道場跡及び二俣本泉寺庭園遺跡（九山八海の庭）の発掘調査成果について金沢市埋蔵文化財センター職員が解説を行い、参加者は本物に囲まれた空間で加賀一向一揆の歴史に理解を深めたようであった。

実施日時：平成 30 年 10 月 13 日（土）

開催場所：本泉寺

対 象：市民

参加者数：40 人



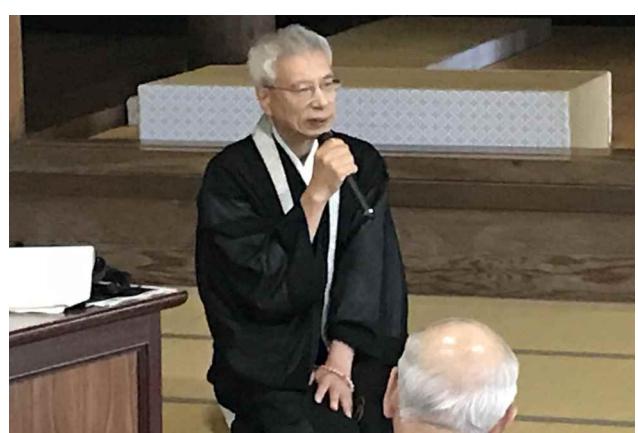
九山八海の庭見学



本堂 松扉住職の解説



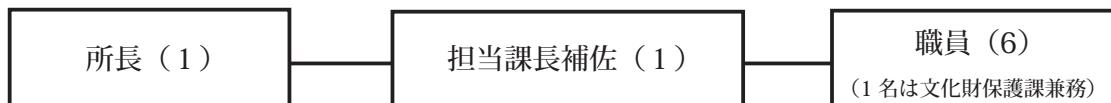
発掘調査成果の解説



本堂 松扉住職の解説

4. 組織

平成 31 年 3 月 31 日現在



平成 30 年度 金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 31 年 4 月 26 日発行

発行 金沢市

編集 金沢市埋蔵文化財センター

〒 920-0374

金沢市上安原南 60 番地

TEL : 076-269-2451

FAX : 076-269-2452

Mail : maibun@city.kanazawa.lg.jp

